

シンケンスタイルに住む。

あれから10年、いかがお過ごしですか？



SINKEN STYLE Concept Book

シンケンスタイルに住む。

あれから10年、いかがお過ごしですか？



お陽さまの つぶやき

世の中のほとんどの家は、道なりに建っている。

それぞれの道は、そこに通る理由がちゃんとある。

が、それは、あっちへ向かったり、

こっちへ向かったりしている。

なのに人はなぜか、

その道を抛りどころに家を建ててきた。

だれもそのことに疑いをもたず……。

いつの間にか、それが世の習いになって、

家々は道なりに建ってしまった。

と、ある時から、シンケンはお陽さまが気になった。

春、夏、秋、冬、ずっとその動きを見ることにした。

そして、東から出て西に沈むと思っていたお陽さまが、

冬と夏ではずいぶん違う方から「お出ましになり、」

ずいぶん違う方向へ「沈んでいかれる」ことを知った。

シンケンは真剣に考えた。

冬のお陽さまは歓迎し、

朝と夕方は真横からたっぷりと入ってもらっつことを。

夏のお陽さまにはご遠慮願ひ、

窓の配置や葉の繁った大きな樹で日射しをよけよう。

そんな住まいづくりを始めて何年も経った。

シンケンスタイルの住まい手たちは、

そんなお陽さまのことをよく理解して、

日々豊かな恵みに浴している。

かくしてシンケンはそのような住まいを建て続けた。

お陽さまを抛りどころにした住まいは数を重ね、

まちのあちこちで見かけるようになった。

初めは、ちょっと不思議に思われた佇まいも、

少しずつ人目に触れる機会が増して

親しまれてきたように思う。

そのことを、空の彼方からずっと眺めていたお陽さまが言った。

「あの住まいたちは、わたしのことをよく分かっているね。

わたしが強く、激しく当たるときは、固く閉ざし、

柔らかく、やさしく当たるときにはいっぱい開いて

奥の奥まで迎え入れてくれる。

こんなにまでわたしの動きを分かっているなんて、

ひまわりみたいだね。

冬はほんとうに暖かそうだし、

夏は涼しそうだね」……と。



表紙の写真は2013年秋に撮影した、築10年を迎えたWazett style。今回の本のための取材後に初めての外壁の塗り替えをされたためか、まるで新築さながらの写真に。

「経年変化の美しい、いつでも手に入る材料」で建てた木の家に、メンテナンスしながら愛着を持って長く住まう、それもまた自然に寄り添う暮らしの在り方なのかもしれません。

CONTENTS

お陽さまのつぶやき 002

はじめに 008

シンケンスタイルはライフスタイル

LLB 010

土地を読む：2003年のWazett style 013

01 10年目のWazett style 020

親と子の成長空間：2003年の内野さんち 033

02 10年目の内野さんち 040

永く住む：2003年のカジキ商店 051

03 10年目のカジキ商店 056

無二の住まい：2003年の湯楽庵 073

04 10年目の湯楽庵 080

自然に寄り添う：2003年の前田さんち 091

05 10年目の前田さんち 098

進化するシンケンスタイル

梶BOX 112 / Jパネル 114

06 梶BOX 久保さんち 116

モイスのいえ 122 / PLAY WALL 124

07 モイスのいえ 太細さんち 126

全国に広がる提案住宅「モイスのいえ」132 / Webストア 136 / ウッドワークス 138

シンケンスタイル 12 の方法

01 テックという第2のリビング 026 / 02 通りぬけ納戸と家事室 028

03 参加型キッチン 030 / 04 快適トイレとサニタリー 046

05 開放的な屋内 048 / 06 敷地と住まいの関係 062

07 庭のかたちと緑 066 / 08 ソーラーシステム 068

09 洗濯物の干し場と動線 086 / 10 木の香りの浴室 088

11 柱や梁を隠さないシンプルな内装 104 / 12 フレーマーとオルスタズ 106

シンケンスタイルはコミュニケーション

シンケンの住まいを建てる前に 142

ホームページ/シンケンスタイル・コミュニティ/与次郎ヶ浜モデルハウス

博多の森モデルハウス/天文館モデルハウス/完成見学会/

現場のご案内/暮らしの見学会/住まい教室/不動産/サンサントウン

家づくりを思い立ったら 158

建てた後は 162

ユーザーズサポート/ハウスケア

シンケンスタイルギャラリー 166



シンケンスタイルは ライフスタイル

住まいのスタイルは、住宅づくりのスタイルであるとともに、
住まい方のスタイルであると、シンケン 생각합니다。
住まう人の人柄やライフスタイルが住まいづくりに反映されると、
住まいはさらに魅力的なものになります。
これから住まいを建てようという人が、
どんなライフスタイルを望んでいるかを汲み取ることは、
住まいづくりの上で最も重要なことだとシンケン 생각합니다。



はじめに

世の中には「住まいを建てる」ための情報は溢れているけど、住まいを建てた後の「暮らし」を長いスパンで検証した情報はほとんどありません。

しかし住まいは建てた後、長い年月をそこで過ごすことになるもの。これから住まいを建てる方にとっても、10年後・20年後をイメージしておくことはとても大切です。

そんな思いを持っていた私たちは、今回本をつくるにあたって、あえて入居して10年ほどになる5つの住まいを取材させていただき、住まい手の生の声を聞いてみることにしました。

実はこの5家族は、2004年に出版した『LONG LIFE BOX』で一度取材させていただいている方々。今回の『シンケンスタイルに住む。』では、その当時(入居しやすく)の取材内容と、入居から約10年の取材内容を続けてご覧いただけるように構成しています。

10年の時をまたいだ取材内容が並ぶことで浮かび上がってくる、それぞれの家族にとっての「住まいをつくり、そこで暮らすこと」の価値。

ぜひ、感じてみてください。

2013年秋

株式会社シンケン

LLB
LONG LIFE BOX
SINKENSTYLE

2002年に、当時のシンケンの最新の仕様を詰め込んだ住まいとして登場して以来、“長く楽しく暮らしていくためのシンプルな器”という考え方が幅広い層に支持されてきた「LLB」。その考え方は、シンケンの住まいづくりの思想の“核”として今も変わることなく息づいています。

※「LLB」の仕様は常に改良を重ねています。現在は内壁の素材は、当初の「唐松合板」から「モイス」に、また柱・梁は「唐松集成材」から鹿児島県産「杉集成材」に、それぞれ変更されています。

読む

土地を

01

シンケンスタイルはライフスタイル

2003年のWazett style

竣工:2002年12月

山に囲まれた細長い田んぼが、
とっても素敵な場所に変身しました。
深い緑を背景に、小川のせせらぎの先に見える
赤い建物「ワゼットスタイル」。
1階はのんびりとスイーツが楽しめる
カフェスペースが広がります。
ワゼットスタイルは、ここに建っているからこそ価値をもつ
魅力がいっぱいのカフェ兼住宅です。

P13~19 / 2004年発刊「LONG LIFE BOX」より再掲載しています。

SINKEN STYLE

日本の住宅の寿命が、欧米に比べて
きわめて短いのは周知の通りです。

国内の住宅のストックの数を、その
年に建てられた新築数で割った数字を
見ると、日本では30であるのに対して、
ドイツでは79、アメリカでは103、イギ
リスでは141となっています。

この数字がそのまま住宅の寿命を表
しているわけではありませんが、各国
の住宅寿命の比較にはなります。

日本の住宅は、なぜこんなに早く壊
されるのでしょうか。

そのいくつかの理由の中でも特筆す
べきは、日本の多くの住まいが20年も
しないうちに陳腐化してしまい、物理
的な耐久性とは何ら関係のないところ
で壊されることがほとんどだ、という
のです。住まいづくりの思想に大きな
問題があるように思われます。

居心地のいい場所をつくることが住
まいづくりの原点です。住まい手が長
い間気に入って住み続けたいと思うこ
と、そして住みこなせる計画になって
いるかどうか、が住まいの寿命に大き
く関係しています。

シンケンの住まいづくりは、時間の
経過を視野においてプランニングや素
材の選択を熟考することを、とても重
要な事柄として、一軒一軒に思いを込
めて、つくり続けています。



カーの多い山道を車で分け入っていくと、道ばたに気が付かないほどの小さな看板が立っていて、脇をふっと横にそれた途端……、使い古された言葉だけれど「絵のような」世界が待っていた。

目にしみるような深い緑に囲まれて、真っ赤な屋根とレンガ色の外壁のLLBが映える。どうやら奥にはきれいな芝生が広がっているようだ。右手にはカエルの鳴き声が満ちる淵がある。なんだかワクワクした気分で、澄んだ水のせせらぎに渡された木のブリッジを歩いていった。

「ワゼットスタイル」は西中間さん夫妻が長年夢に描いていたカフェであり、彼らの理想郷である。店名のWazett（ワゼット）とは北欧の言葉を元に考えた造語で、「とっともいいところ」として訪れる人にとって特別な場所になって欲しいという意味が込められている。

長年あたたためてきた夢を、市来で実現

ご主人の剛さんは地元市来出身で、貴子さんは千葉出身。同じ会社に勤めていた2人は、剛さんの鹿児島転勤を機に結婚しこの町に戻ってきた。当時、剛さんのお父さんの定年後の計画として、田んぼだった敷地にゴルフ練習場を建てる話があったが、貴子さんはその傍らに小さなカフェをつくりたいと考えていた。「ゴルフはお父さんと主人共通の趣味で、カフェは私の夢。

それを合わせれば相乗効果が生まれると思ったんです。これまでと違う新しいスペースをつくれれば、楽しみ方も広がってくるはず」と貴子さん。時代はスローライフ、自然回帰へ向かっている。今、ここにしかない時間と空間の中で、旬の材料でつくった食べ物や心の底から味わい、幸せな気分になって欲しい。地元の人々が自慢できるような、「あのカフェがあるから市来に行く」と他の地域の人も来てくれるような、そんな場所にした。縁あって暮らすことになった市来町で、「ここならそれができる」と貴子さんは確信した。

ふっつうの家のなかに、カフェみたい

料理は昔から大好き、お菓子作りも大好き。お茶の勉強、コーヒーの勉強、さらに経理を学び、起業家セミナーを受講……。貴子さんは店づくりに邁進していった。そしてご両親もそんな彼女の夢に共感した。「鹿児島に来た頃は、シンケンという名前もまったく知らなかったんですけど、ある日県庁の展望レストランで食事をしていて、偶然、与次郎ヶ浜のモデルハウスを発見したんです。上から双眼鏡で見ていると、太陽の光を浴びてシャキーンと斜めを向いている変わった家が2棟ある。あれはナンダ！ って（笑）。運命の出会いでしたね」。

その足でモデルハウスに行った。中に入ってみると板土間が広がっていて、スタッフがテザートとお茶を出してく



西中間さん夫妻
剛さんもいつかはカフェと一緒に運営したい



店内北側のカウンター席。ここからは青々とした芝生と山並が望める

れて、「もうこれで十分カフェじゃない！」と大喜び。実はゴルフ練習場を主体とした建築計画は、他の工務店に依頼してかなり進んでいたのだが、カフェのイメージがうまく伝わらず、もうやめようかという話まででていたのだ。シンケンに魅了された夫妻は思い切って計画の見直しをする決意を固めた。そこで、現地に案内された迫社長が涼しい顔で言ったのが、「ネットを張らずに芝の庭をつくり、そこでゴルフを楽しむような新しいタイプの練習場にしましょうよ」の一言。話は思わぬ方向に進んでいくことになる。「ここは田んぼだった湿地なので、排水をどうす

池側からみたカフェ。東と南側には張り出したテラスがあり、テーブルやイスを出せば外でもお茶が楽しめる



るかについても悩んでいたんですけど、迫さんは一目見て、「ここに池をつくりましょう」と、まったく逆の発想をした。あれには驚きました」と剛さん。

土地がもつ 魅力を発見

入口からずっと入って来てはじめて全貌が見えるように、建物は敷地の中ほどに配置しましょう。池の上にはブリッジをつくりましょう。ただ整地するのではなく斜面に雑木を植えて、自然の中に佇む家をつくりましょう。と、次々繰り出される迫社長の提案によって、どこにでもある山と田んぼが

2階の住まいから1階カフェを見下ろす



1階カフェのオリジナル木製建具を開け放つと、大きな開口部で外部とつながる





外壁の濃い赤茶色が、水辺や木々の緑の中で存在を主張する



池をまたいだ先にもテラスデッキがあり、別の角度から庭が楽しめる

開放感いっぱいの池に面したデッキ席



どんな姿を変えていった。「それまで私たちがこの土地がもっている魅力に全然気づいていなかったんです。環境全体の良さが見えていなかった。建物ができて初めてここは、すごくいいところ」になったんです。最初は建物についての要望を細かく出した夫妻だが、そんな迫社長の様子を見ていて、途中でふっと力が抜けた。「第一、社長はこちらの言うことを聞いていそうでもない(笑)」。いや、聞いた上でもっといいものにしてしまうから最終的に出てくる形が要望通りとは限らない、ってことだ。「不安もありましたよ。特に真っ赤な屋根が出現したときには、これじゃまずいだらうー!と大騒ぎ。壁を塗ったらまた感じが変わりますよ、って言われたんですけど、塗ったら壁も赤かった(笑)。元々黒のイメージがあったので、あまりにも周囲から浮いた色でびっくりしてしまっ……」。

ところが、デッキの色を塗って、アプローチができて、だんだん全体が見えてくると、その赤がとても良く思えてきた。冬から春になってあたりが新緑に染まる頃には、やっとその色の意味がわかった。「思ったとおりの「じゃなく、」思いも寄らなかった」ものができる喜びがそこにあった。

待ちに待ったプレオープン。シンケンの見学会を兼ねてお茶とケーキを出して、6日間で800人の人がここを訪れた。今はその時の見学者が得意さまとして新たにお客さまを連れてきてくれる。「最近気が付いたんですけど、

ど、シンケンの建物を好む人がワザワザトスタイルの望むお客さま像でもあるんですね。一言で言えば、暮らしに対する意識が高い」ということ。自然が好きで、気持ちに余裕がある、自分の暮らしを大事にするから人に対しての気遣いもある」と貴子さん。

夢と幸せが 「ここ」から広がる

お客さまは「この前はこっちに座ったから今度は向こうに」と「コーナーごとに違う雰囲気や窓から見える景色を楽しんでいる。

雨の日には池に広がる波紋を、夏はカエルや虫の声、泳ぐ小魚、秋風の匂い、デッキに映る影、吹き抜ける響く音楽……、高速道路からほんの5分入っただけで、こんなにも日常から遠ざかれるという驚き。ぼーっとくつろいでいると2時間、3時間がうそのように過ぎていってしまう。

「ゆくゆくはパン窯をつくってオリジナルのパンを焼きたい」というのが二人の夢。初夏には蛍を見る会を企画しよう、それから別荘にいるような感覚で1日を楽しめる貸し切りプランもいね、なんて夢はどんどんふくらんでいく。剛さんのご両親も庭と畑の管理をしながらしみじみと「いい家だねえ」と言ってくれる。

自分たちがいいと思う暮らしのスタイルを一つひとつ実現させて、それ自体を楽しんでもらうという試み。幸せの輪がここから広がっていくのだ。

あれから10年、いかがお過ごしですか？

SINKEN STYLE 01

10年目のWazett style

鹿児島県いちき串木野市

カフェのオープンから10年の時を経て、無理なく心地よく続けていけることの大切さを再確認しているという西中間さんご夫妻。自然のリズムに合わせて、働く時は働き、休む時は休む。お客さまに「いつ来ても気持ちがいいね」と言っていただけ、そんな状態が保てていることが幸せだといいます。

自然を取り込んだ立地に、手入れの行き届いた庭。心地よく自然を感じてもらうための「おもてなし」だ





頬をなでる風の心地よさ 自然を感じる空間を提案

オープンして今年で10年。ご主人の剛さんが念願のスタッフとなり5年が過ぎたワゼットスタイル。

「サラリーマン時代は、毎日ネクタイを締めて汗だくで働いて帰ってきて、カフェでゆっくりお茶を飲んでいられるお客さまがうらやましくって。今はこんなに心地いい場所で仕事ができる、さらにお客さまに喜んでもらえる、カフェの仕事はいいですよ」と退職後伸ばし始めた「髭をたくわえ、テキ

パキとオーダーをとる剛さんのようすからは、充実した日々がうかがえる。

雨上がりの蒸し暑い空気が体にまとわりつく初夏、「電力使用量」は気になるものの、やはりエアコン無しでは過ごしていく季節だ。しかしここに来ると、豊かな緑の中をそよぐ爽やかな風に、身体のほてりが少しずつ取れていくのを感じる。

「エアコンスペースは10年間、空席のまま。お店なのにエアコンが無いなんて！と言われたこともありましたが、どこ窓を閉めて、せつかくの心地いい風を感じられなくなるなんて、もったい



お手製ケーキ2個とドリンクがセットになった「ニコニコセット」が最近の人気メニュー

ない」と話す貴子さん。春夏秋冬、朝夕の変化を日々感じていくうちに、一番過ごしていくのは、風が吹かずに蒸し暑い梅雨の後半だとわかったそう。

「7月上旬は思いきって休みを設けたり、暑い時期は風の通る席を案内するなど工夫しています。自然に合わせ暮らすって大事なことだと思うんです。エコ、クールビズ、原発問題に節電と時代が流れて「10年間やってきて、やっと時代が追いついてきたね」とお義父さんが言ってくれる。方向性は間違っていないかと実感しています」。



使い勝手のいいキッチンが要。冷凍庫や備品はストックヤードを兼ねた裏庭のガレージへ収納

オープンから10年 古くなったのは家電だけ

全てが順風満帆だったかのように見えるワゼットスタイルだが、オープンまでは大変だったという。「こんなに心地いい場所をイメージできていたのはおそらく迫社長とシンケンのスタッフさんだけ。周りは皆本心に心配していました」。

だが、周囲に心配されながらも、貴子さんにはずっと前から考えていた理想のカフェ像があった。それは、「お店を後にする時に、今度はあれを食べよう、次はあそこに座ろう、誰と一緒に来よう」という風に次に来る時のイメージが浮かぶお店だという。

そんな強い思いが通じたのか、カフェはオープン以来、雨の日でも風の日でも、お客さまが来なかった日は無いのだという。それも通りすがりではなく、「ここを目指してきた人ばかり。台風が来るという時にもお客さまがやってきて驚いた」こともあったそう。

「できたころもイイと思っていただけ、今でも帰ってきて建物が見える、いいな〜と思えます。数年ぶりに来られたお客さまも「やっぱりここはいつ来ても気持ちいいわね〜」と喜んでくださいます。10年経っても気持ちも建物もカフェも新鮮。今年はメインの冷蔵庫が壊れて、もう10年か〜と実感しますが、古くなったのは家電だけという気がしています」。そう言って貴子さんは微笑んだ。



お手製のケーキとドリンク、そして緑に囲まれたな空間でもてなす、それぞれの特別なひととき

D A T A

建築概要

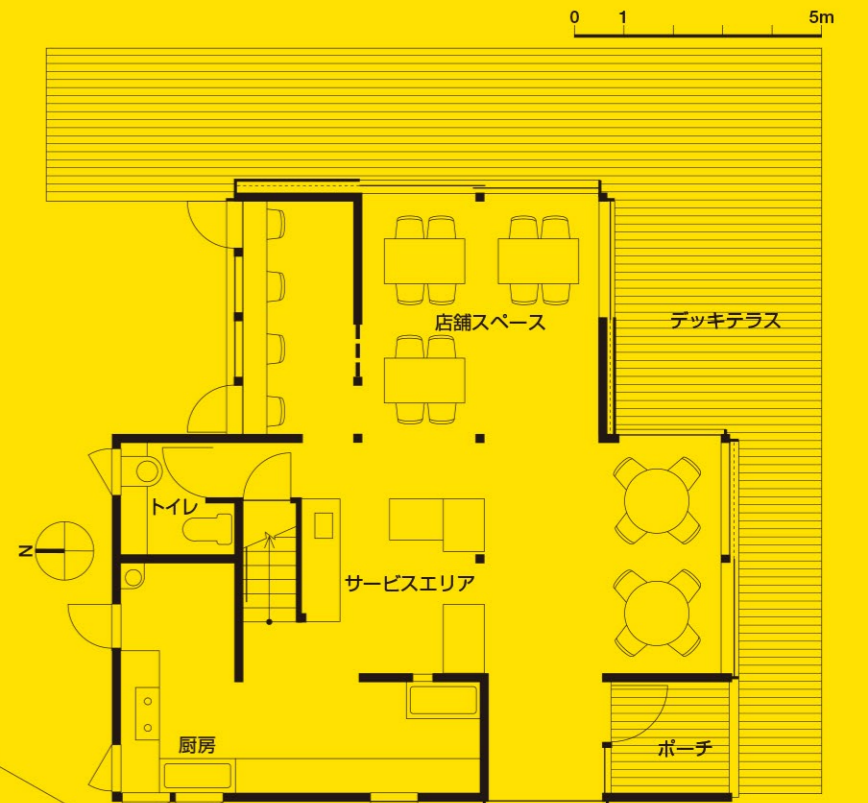
Wazett style / LLB 608g
(ワゼットスタイル)

所在地 鹿児島県いちき串木野市大里 4278
敷地面積 7883㎡
建築面積 84.96㎡
延床面積 120.96㎡ (1階 80㎡、2階 40.96㎡)
用途地域 無指定
家族構成 夫妻2人
竣工 2002年12月

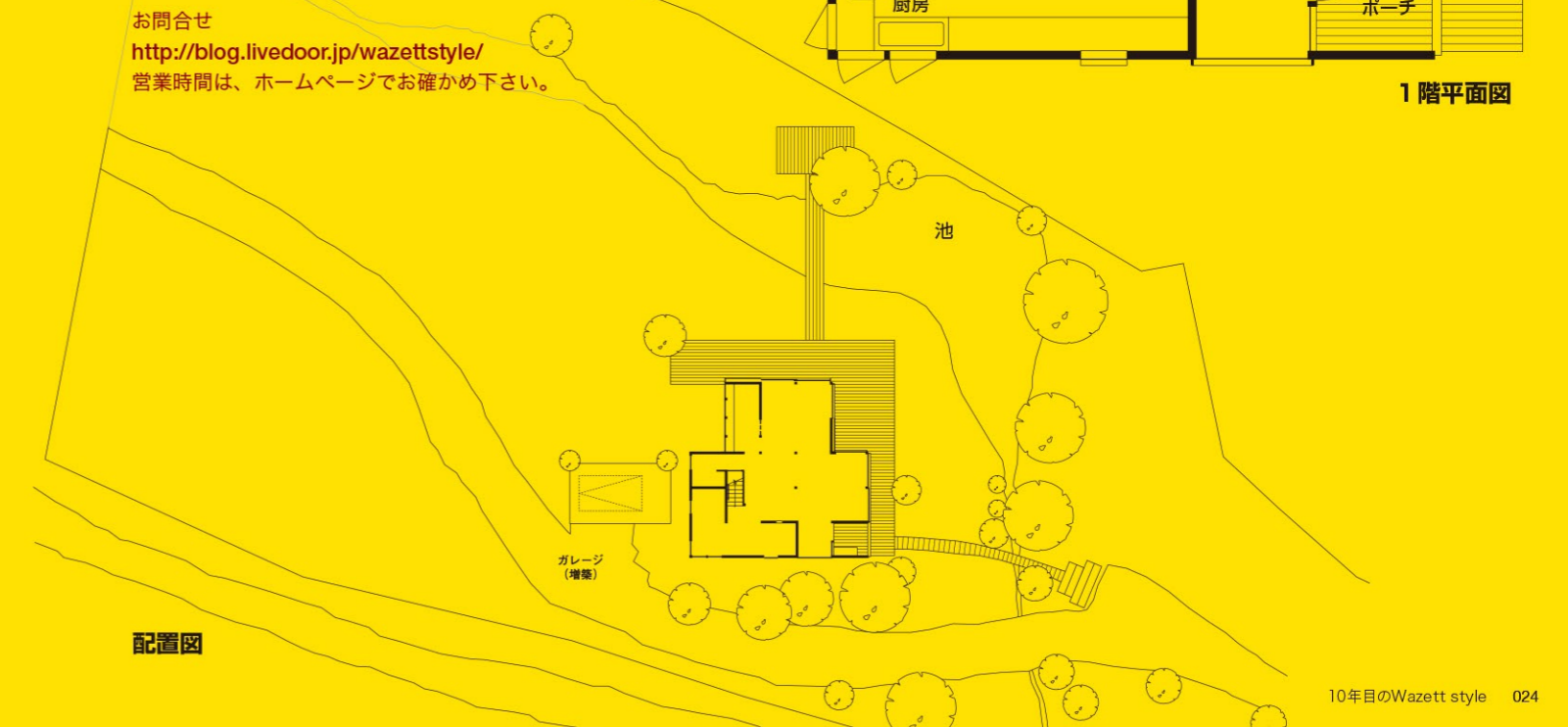
主な外部仕上げ
屋根 ガルバリウム銅板横葺き
外壁 杉縦目板押さえ張り
建具 マーヴィン(インテグリティ)
デッキ床 米ヒバ目透かし張り
主な内部仕上げ
床 構造用パネル
壁 プラスターボード デュブロン塗装
天井 構造用合板あらわし

お問い合わせ

<http://blog.livedoor.jp/wazettstyle/>
営業時間は、ホームページでお確かめ下さい。



1階平面図



配置図



キッチンが近いと、準備も片付けも楽チン



リビング横のデッキはいつでもプールに早変わり。キッチンからも目が届くので安心



街中でもアウトドアライフを満喫。2階のリビング横のデッキで、仲間を招いての楽しいひと時

住まいに内包された外が
暮らしのゆとりに

青い空、新鮮な空気と木々の緑が、
時の流れをゆるやかに



シンケンの住まいには、室内と外をのびやかに繋ぐ、ちょっと広めのデッキスペースがあります。
デッキは、休日の午前中にゆっくりとプランチをとったり、夕涼みを楽しんだりから家族でバーベキューを楽しんだりする場所。ですから、周囲からの視線

は遮ってプライバシーをしっかりと確保しつつ、見晴らしのよいところ、庭の花や緑、鳥のさえずりなどが身近に楽しめるところに つくりまします。また、お茶や食事の準備・後片付けが楽にできるように、デッキはできるだけキッチン

の近くに配置することも大切です。
そしてデッキの南側と東側に落葉樹を植えれば、夏場の強い日射しを遮る爽やかな木陰ができます。
室内とは一味違う、心地よいくつろぎの時間を過ごすための第2のリビングです。

デッキから第2のリビング

SINKEN
STYLE

01

12の方法

通りぬけ納戸と家事室

収納は必要なところに必要な大きさ
のものをつくれれば、ものが出しやすく、
片付けやすい住まいになります。
シンケンでは、玄関横に「通りぬけ
納戸」をつくるのがほとんどです。
家族はここで靴を脱ぎ着すれば、玄関
のたたきは、何足もの靴が並ぶことな

く、すっきりきれいに使えます。また、
アウトドアやガーデニング用品を置く
場所としても最適です。
さらに、キッチン横に通りぬけの家
事室を備えれば、出番の少ない家電や
掃除道具などを収納できます。
生活動線上に納戸を備えることで、

家事の効率上がり、さらには生活空
間に余計なものが出にくくなるため、
急な来客があっても慌てることなくす
っきりとした空間で迎えることがで
きるので安心です。
普段あまり使わないものは、屋根裏
の空間を納戸としても利用できます。



家事を助ける、キッチン脇の通りぬけ家事室

リビングからは見えないキッチン脇のコーナー。
キッチン→パントリー→家事テーブル
→洗面・手洗い→納戸→玄関へとつながり。

歩きながら片付けられる収納



大容量の壁面収納。浴室・洗面の横だから動線に無駄がない



参加型キッチン

キッチンは、使う人によって使い方もさまざま。ですから、使う人に合わせたベストなサイズや形があると考えられています。そこでシンケンのは、オリジナルに開発したキッチン家具を提案しています。ダイニング側に壁がないアイランドキッチンが定番です。

アイランドキッチンは、ダイニングやリビングにいる家族との会話を楽しみながら作業ができるため家族やお客さまとの団らんが生まれやすいのが特徴。また、オープンなつくりなので、周りにいる人が食事の準備や片付けに気軽に参加しやすいのも奥さまにとっ

てうれしいポイントです。アイランドの側面や壁側の作業台は、収納家具を兼ねています。各家庭の事情に合わせて、食器や鍋、調味料、炊飯器やポットなどがスッキリと収まり、なおかつ取り出しやすいように設計しています。



作業が見えるから、
話ができるし、手伝いやすい



おしゃべりしながら、お茶の準備やお片づけも楽しめる。キッチンは単なる作業場ではなく、コミュニケーションも楽しめる空間



収納豊富なアイランド。炊飯器を置くワゴンはダイニングに運べる



引き出し式日常用食器入れ



表に露出しない包丁とまな板



冷蔵庫脇のスライド収納式の食品庫

の成長空間

親と子 02

シンケンスタイルはライフスタイル
2003年の内野さんち
竣工:2003年1月

子どもたちのために、
早く「わが家」をもちたかったという内野さん。
隣家や上下階に気がねなく走り回れ、
多少キズがついても気にならない、
そして、夫の和久さんの趣味スペースを確保し、
妻の章子さんのピアノ教室が開ける、
さらに家族とその友だちが集まり、
ワイワイ楽しめる「わが家」を建ててしまいました。

P33~39 / 2004年発刊「LONG LIFE BOX」より再掲載しています。



みんなが集まる、うれしいキッチン

玄関側からみたダイニングキッチン。東側は高い建物などがなく、見通しがよい



レッスン中の章子さんと生徒さん。建具を閉めればピアノ室は閉じた空間になる



南側からみたリビングダイニングキッチン。左ソファの後ろがポリカーボネートの引き戸。左奥がピアノ室

塀のない住まいの玄関まわり。手前が公道、正面シンボルツリーの奥、白い壁の左が玄関



出 来たてホヤホヤの家が建ち並ぶ丘の上の新興住宅地。敷地面積はともだいたい50坪前後だろうか。車を走らせていると同じような表情のファサードが何軒も続く。そのいちばん奥、高台の端に建っているのが内野さんのお宅。近づいてくるとそこだけ漂う空気が違うので、言われなくてもすぐにシンケンの家が建っているとわかる。

道路からややセットバックさせた門も壁もないオープンなポーチ、緩やかな枕木のステップの脇にはイチヨウの木が枝を広げていて……、「他の家とは全然違うんだけど、不思議とまわりに調和していて、なんだかすごくいい感じ」。内野さんもそんな「いい感じ」につられて、ついつい飛び込みでシンケンの見学会に参加してしまった一人である。「たまたま通りがかって入ってみたら最初はびっくりしました。壁紙がない！廊下がない！って。でもそれは違和感というより、好感でしたね」と和久さん。

子どもが欲しい、「わが家」を贈る

転勤が多いためこれまでずっと賃貸住宅に住んできたが、結婚当初から子どもが小学生になる頃には家を建てようと思った。自分もそうだったように「ここがわが家だ」と思えるような場所を早く定めてやりたい、という意識があったからだ。見学会の後に何軒か続けて見学して、ソーラーシステ

ムの知識なんかがついてくると深みにはまってしまうんですよ(笑)。住宅展示場にも行きましたが、他のメーカーの家を見るのはシンケンの良さを再確認するために、比べるために行くようなもので。どんどん気持ちが高まって、すぐにでも建てよう！と決心したのは3年前。ところがその時、和久さんには次の転勤が待っていた。のんびりしたシンケンの営業マンに「内野さん、そうあせらずに帰って来てからゆっくり考えましょうよ」と諭され(？)、奄美大島に勤務すること2年。春先に戻って、ゴールデンウィークにはもうプランをお願いしていた。ちょうど長女の碧ちゃんが小学1年生になる前の年。計算されていたかのようにベストタイミングだった。

ピアノ室とリビングの、ゆるやかなつながり

家を建てるにあたり、もうひとつ大事なテーマだったのは、章子さんのピアノ教室を開くということ。以前はヤマハの教室で講師をしていた章子さんは、長年自分の教室をもちたいと願っていた。ただ、問題は場所をとるピアノ室を全体の中にどう配置するか。そこで、夫妻はあえてピアノ室をリビングと一体になるようにして欲しいと希望した。「別にすると、教室の時間以外はデッドスペースになっちゃうでしょう。リビングの中にあれば、ふだんは自分たちのスペースの一部になると考えられます」。その希望に沿って出来

内野家のキッチン、明るいフルオープン。4方向から使える大きな作業台は家族みんなで料理が楽しめる



もうひとつ、和久さんの夢が実現されたところと言えば車庫とデッキが隣接している点。「僕がやりたかったのは、デッキで釣り仲間と宴会を開くことだったんです」と和久さん。当初から「車の似合う家」と希望していたが、「車からクレーンを出してすぐに魚をさばける便利でしかもいいわいい提案をし

家族それぞれに、 うれしい居場所

2階の子ども室は、今のところ碧ちゃん5歳の拓海君が机を並べてワートルームで使っているが、後々どうするかは子どもたちに任せるつもり。将来、彼らがどんな風にするか見るのも楽しみだ。そして、その子ども部屋を吹き抜けから見下ろせる3階は、和久さんの「男の隠れ家」となっている。窓際の一角には趣味の釣り道具がところ狭しと並べられ、屋根裏には今年の獲物、大物の魚拓がバインと張ってある。子育てとピアノ室がテーマ、と聞いた気がしたが、やっぱりちゃんとお父さんの居場所も確保されていた。

9坪ほどあるロフトのスペースは、それぞれの生活にゆとりをもたらしている



上がったプランは、柱と階段を中心にした田の字型の一角をピアノ室として、教室側とLDK側とを半透明のポリカーボネイト製引き戸で柔らかく仕切るというもの。教室の時間以外はこの引き戸を開け放しておけば、ワンルールの隅にピアノが置いてあるという雰囲気になる。また、ピアノ室にはさらに断熱材入りの板戸を設けてあるので、閉め切ってしまうは音も気にならない。「防音に関しては、いちばん気にしたところですが、でも住まいの性能がいいので、外に音は漏れていないようですね」と章子さん。L.L.Bは壁パネルも

2階の子どもたちの机が置いてあるスペース



階段で遊ぶ碧ちゃんと拓海くん
よじのぼったり、ぶらさがったり、階段は格好の遊び場に





友人一家を招いて、午後デッキでホームパーティーを開く

釣りあげた魚をデッキでさばく和久さん



てくれたのは迫社長。デッキにシンクを付けるという願いも叶えられて和久さんはご満悦である。デッキは第2のリビングとして、そして宴会場として、夏場は特に活躍しているそうだ。「家ができてみて思うのは、ピアノのおかげで他の部分が凝縮されて、リビングとキッチンが離れてなくてよかったということ。人を呼ぶのが好きなので、友人が集まるとアイランドキッチンの良さが生かされているな、と思います。僕だけソファでゴロゴロしてい

るわけにいかないというのが計算外でしたけどね（笑）」。
親も子どもも一緒になって真剣に遊んで、いろんな体験をして、コンパクトな家の中には変化に富んだ家族の毎日がぎゅぎゅ詰まっている。「夜、子供を寝かせた後で2人で外に出て、いい家だよなあ！なんてしみじみ眺めることがあるんですよ」と照れ笑する内野夫妻。5年後、10年後、子どもたちの成長と共に味わいを増す家を、どんな思いで見ているだろうか。



住まいの南側には、ベランダと大きなデッキがおかれている

道路側カーポートの奥はデッキにつながる



あれから10年、いかがお過ごしですか？

SINKEN STYLE 02

10年目の内野さんち

鹿児島市

新築から、本当にあっという間だったという10年。
子どもたちはみるみる成長し、
部活に塾にと大忙しの生活に。
でも、いまだに夏場のバーベキューは
家族全員の楽しみだといいます。
変わらない我が家の居心地のよさと、
ぐんぐんと成長を重ねていく子どもたち、
そして庭の植木たち。
変わらないものと変わっていくものの
コントラストが印象的な内野さんちの“10年後”です。

すくすくと枝葉を広げたシンボルツリーの銀杏や
デッキのケヤキが、3階建の屋根と背比べするほどに





おそとでご飯でキャンプ気分を満喫 デッキは我が家の第2のリビング

「家を建てる前はよくキャンプに行っていたんですよ。だからデッキで食事をするのはキャンプ気分の延長ですね。最近は暇がないっていうのもあるんですけど、キャンプに行かなくてもここで済んじゃうんですよ」と話すご主人・和久さん。2人の子どもたちは塾や部活に忙しく、平日は食事を共にすることもままならない。それでも月に一回程度は今でもデッキに家族が集

まりバーベキューを楽しむという。「子どもたちにとってもデッキでのご飯は楽しみみたいで、ちょっと生意気になってきた(笑)長男の拓海も手伝いはすすんでやってくれます」と奥様の章子さん。実は団らんのひと時を一番楽しみにしているのは和久さんのようで、朝早くからデッキの掃除やテールセティングに勤しみ、待ちきれないようすでバタバタと火起こしに汗を流す。デッキでの食事は、家族の絆を深める大切な時間なのだ。

新築当時はデッキの横は空き地だった

暮らしに合わせて仕立てた オーダーメイドの住まい

「毎年恒例のデッキの塗装と庭木の剪定をもう10回もやったんだ」と振り返る和久さん。長女の碧ちゃんの小学校入学に合わせて建てた内野邸。この10年での一番の変化といえば、やはり子供たちの成長ぶりだろう。「この家で育った子供たちと、庭の木々の生長が重なって見えてしまうんです。枯らしちゃうと洒落にならないから、大事に大事に」と章子さんが笑う。

子供たちの成長に合わせて、自由に間仕切りができるようにプランされた2階(p.49参照)。「将来は取り外せる間仕切りを立てただけなんですけど、この前碧が『私の部屋』と呼んでいるのを聞いて、こんな簡単な部屋でいいんだ」と内心思っ(笑)。けどやっぱりそれぞれのスペースをつくってあげて良かったなと思います」と章子さん。毎年開催しているピアノ教室のクリスマス会では、ピアノ室が舞台で、リビングが観客席になる。大勢が集まって、デッキでバーベキューという時は、子ども達はデッキでワイワイやって、リビングが大人の寛ぎの場所になる。シチュエーションに合わせて、まさに、変幻自在の家なのだ。

「シンケンの新しい家も素敵ですが、この家は自分たちのライフスタイルに合わせて建てた。オーダーメイドの家。やっぱり我が家が一番だよ」と照れ笑いしながら夫婦で話してくれた。



ゴールデンウィークには3家族12人でのバーベキューを楽しんだ。広さもキャバも十分

D A T A

建築概要 内野邸 / LLB 707g

所在地 鹿児島市
 敷地面積 165.29㎡
 建築面積 53.00㎡
 延床面積 129.00㎡ (1階51.00㎡、2階49.00㎡、3階29.00㎡)
 用途地域 第1種低層住居専用地域
 家族構成 夫妻、子ども2人
 竣工 2003年1月

主な外部仕上げ
 屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
 外壁 しっくい塗り仕上げ、ガルバリウム鋼板張り

建具 マーヴィン(インテグリティ)
 デッキ床 米ヒバ目透かし張り
 主な内部仕上げ
 床 津江杉板張り
 壁 構造用合板あらわし仕上げ
 天井 構造用合板あらわし仕上げ

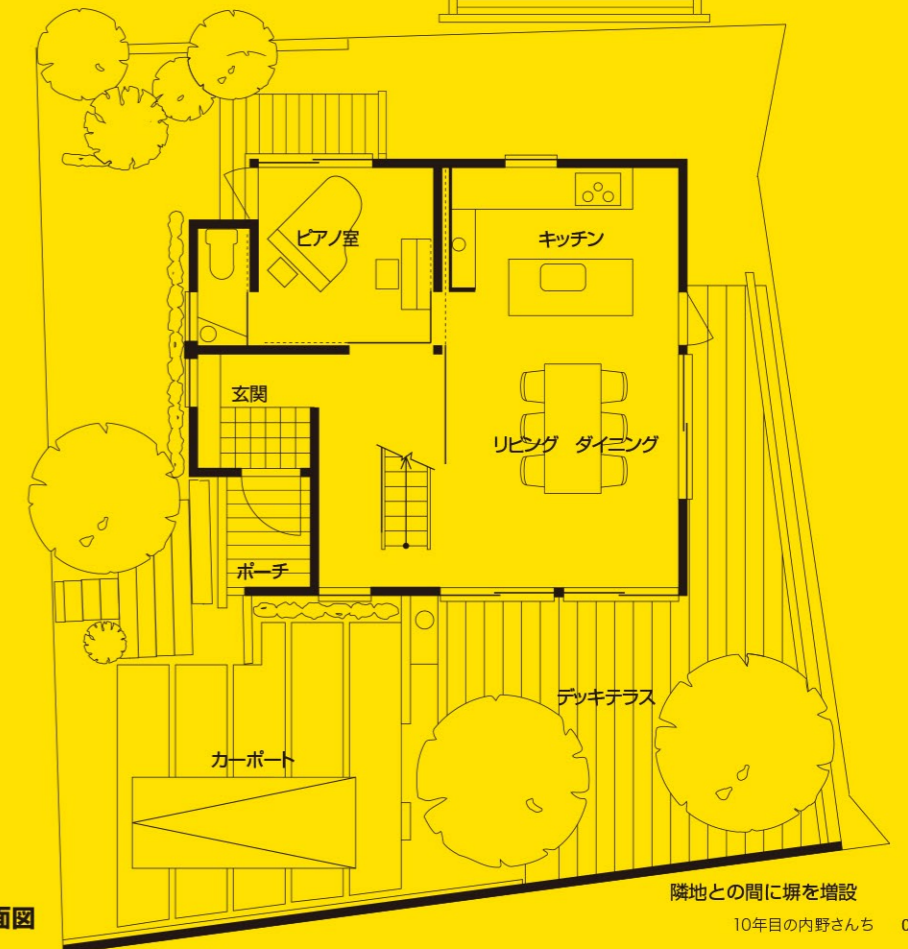


2階平面図

間仕切りを増設した子ども室



配置図・1階平面図



隣地との間に塀を増設

快適トイレとサニタリー

トイレの入り口は基本的に引き戸を採用しています。トイレを使う時間は一日の中でも限られた時間だけです。ですからシンケントイレは、使用する時は閉め、使わない時は開いておくことで、暗くなりながら水廻りを明るく風通しの良い、衛生的で快適なスペース

ーにしてあります。さらにトイレの壁の厚みを利用したシンフルな棚をつくり、ペーパー置き場やちょっとした小物や花などを飾れるようにしています。床の汚れやすい部分には、手入れのしやすい御影石を敷き、また引き戸を利用したフラット

な床は、掃除機をかけやすく家事の時短にもつながります。洗面台は、鏡の中やカウンターに収納を組み込み、日用品が表に出ない機能でシンフルなデザインなので、使って気持ちのいい場所です。



使いたくなるしつらえ



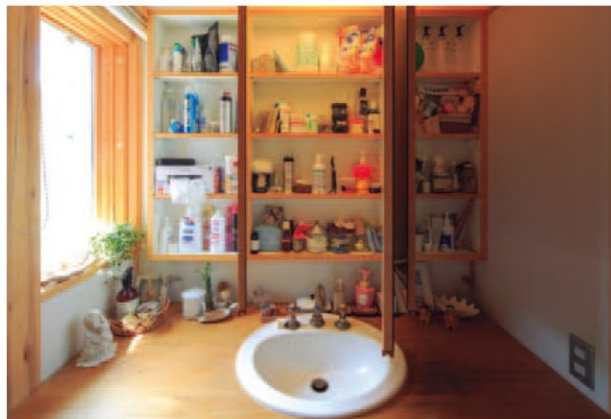
3つに分かれた鏡は三面鏡を兼ねた収納スペース

ちょっとした工夫が
心地よさと使いやすさをアップ

壁の奥にトイレを配置。使う時だけ扉を閉めるから、室内は明るく風通しも良い



隠したい物は鏡の中の収納へ。出しておく物は眺めてうれしい物だけ



開放的な屋内

シンケンの住まいはあまり仕切らずに、空間を開放的に使うようにしています。子ども部屋なども最初から人数分の個室をつくることを前提にせず、小さい時は一緒に使い、子どもの成長に合わせて、家具を移動させたり、簡単な間仕切りで、融通がきくようにしています。住まいは長く使うものですから、なるべく使い方を限定せず、家

族の成長や環境の変化に柔軟に対応できるように考えると、開放的なプランになるのです。たとえば寝室なども、1年中、1カ所と決めなくても、子どもと一緒に寝るときはタタミの間、夏になったら涼しい1階の板の間、春は花が眺めやすい庭側の部屋にするなど、季節によって、その時々によって、その部屋が寝室になればよいと考えてい

ます。しっかり区切った部屋が少ないので、廊下が少ないのも特徴のひとつです。また、ソーラーシステム（P68参照）を採用しているのも、その暖房システムを有効に使うことによって、このような開放的なプランが可能になっています。



光や空気は、ゆうゆうと通り抜け



間仕切りも、自由自在

入居時、仕切らずにオープンにのびのびと使う

内野さんち（P33）の子供部屋の変遷

受験を控え、簡易な仕切りにのれんの扉

小学校高学年に入り、本棚で仕切る





住む

錦江湾北側の始良町で
長年酒店を営む加治木さんは、
以前建てた鉄骨鉄筋コンクリート造のお店を壊し、
これからの店のあり方や快適な住み心地を考えて、
3階建の木造に建て替えました。
人目をひくしゃれた外観、広く明るい板土間の店内、
ゆったりした住居部分は
お客さまを増やし、ここで働く加治木さんの表情を
生き生きとさせています。

竣工：2003年6月

2003年のカジキ商店

シンケンスタイルはライフスタイル

03

永く

P51～55 / 2004年発行「LONG LIFE BOX」より再掲載しています。



タタミの間も開放的に

刃

「ジキ商店」は創業昭和8年の酒屋さん。交差点に面して建つ3階建ての黒い建物は、ガラス張りの入口と木製デッキが斜めを向いていて、信号待ちのドライパーが「ん、何の店？」といった顔で目を走らせたりしている。リニューアル効果は手応え十分。なかなかいい感じだ。

以前この場所に建っていたのは、二代目のお父さんが建てた鉄筋コンクリート造の店。その建て替えを三代目の加治木徳三さんが取り仕切った。「新しい感覚の店を」とグイグイ進もうとする息子と、「あまり冒険せず、地道に」と言っつ父と、親子の微妙な価値観の違いを乗り越えて、バージョンアップの時を迎えたのだ。

頑丈な家の構造ゆえに、不自由な部分も

お父さんが以前の店を重量鉄骨を使う鉄骨鉄筋コンクリート造にしたのは、水害に負けない頑丈なつくりにしたかったから。しかし、頑丈にできたのはいいが、工務店にイメージがうまく伝わらず使い勝手も悪かった。いちばん問題だったのは、駐車場スペースが取れなかったこと。「いろいろ気に入らないことが多かったけれど、鉄骨はやりかえがきかない。今度は木造で建てようと思いましたよ。でも（シンケンの家じゃなくて）もっとぶつうの木造を考えてた（笑）」とお父さん。

そのいっぽうで、結婚当初から「ぶ

つうの木造とはちょっと違う」シンケンに目をつけていたという加治木さん夫妻。「今はどこも酒屋がコンビニになっていってますけど、僕は米と焼酎だけでやっていきたいんです。どこにもある店にはしたくない。人が真似できない店」を建てたかった。そう徳三さんは言う。三代目にとって「店を建てる」ということは建築上の問題ではなく、「次代を担う新しい酒屋としての姿をどうつくるか」という特別な意味を持っていたからだ。だがその頃は、シンケンの家は魅力的だけど店舗併用住宅にはできないだろう、と思いついでいた。

それを聞いて「いや、私もシンケンを知ってたんですよ」とお父さん。シンケンで建てた家に何回も配達に行ったことがあるし、家の前を通り過ぎて、「ああこの家はシンケンだな」と思ったこともある。「でも、玄関先でチラシと見るとクロスも貼ってないし、塗り壁でもない。第一ベニヤ板じゃないか、ってね（笑）。じっくりかけじゃないのか？とも思いましたよ」だから息子夫婦がシンケンで建てようと言いつ出した時には、さすがにすくにはウンとは見えなかった。いくら夏涼しく冬暖かいと言われても、それとこれとは別である。

地域密着型の酒屋としては、代々続くつきあいというものがある。やっぱり知り合いの設計事務所と相談するべきじゃないか……。お父さんの心は揺れた。6年前の話である。



すっきりした店内は板土間で靴で歩いても柔らかな感触。窓からは木々の緑が見えるように植栽が施してある

倉庫の方から見た店内。ゆったりと商品が選べるスペースになっている



三代目が考えた、オリジナルな店づくり

そうこうしている内に5年が経った。物事にはタイミングというものがある。それまではいくらがんばっても前に進まなかった事がポイントと実現される時が来るものだ。カジキ商店の場合、それが昨年だった。三代目の徳三さんは今年40歳。お父さんが最初の建て替えをしたのは42歳。男が将来を見据える時期というのは同じ頃なのだろうか。「息子夫婦に任せよう。やっぱり今からの店づくり、今からの商売をせなあか」父は静かにそう決心したのだ。



お店に続く古い倉庫ではお父さんこだわりの精米機が稼働する

徳三さんと智恵美さん夫妻が数年ぶりに訪れた住宅展示場にはシンケンの新しいモデルハウスが建っていた。「やっぱり木の匂いが違うんです」と智恵美さん。エントランスからそのまま続く板土間はちょっと特別な雰囲気を感じ出して、何かできそう、という気分させた。お店でもできますよって言われて、これで自分たちの願いが叶えられる、と思いました。入ってみたいと思わせる店にしたい。この店は何か違う、と感じさせるものが建物に備わっていて欲しい。お米はお父さんが、焼酎は徳三さんが担当して、それぞれのこだわりを前面に押し出していく戦法だ。前々からのお馴染みさんも、若い人も来られるようなオープンな雰囲気にしていきたい……2人はシンケンのスタッフにそんな新しい店のイメージを伝えた。

2階のリビングダイニングキッチン
3方向に窓があるので風も自在に抜ける。
ソファの上は吹き抜けなので、一際光が降り注ぐ



ダイニングでくつろぐ加治木さん一家。手前上部は吹き抜け部分。



3階の子ども室は将来2つに分けてもいいように、出入り口は2つ設けている



2階の階段。正面がダイニング、右は洗面脱衣室、左は廊下を挟んで主寝室がある



洗面脱衣室の横には、デッキバルコニーがある。家事にお店にと忙しい智恵美さんに好評のスペース



お店西側につくったデッキで家族集合。
手摺りの向こう側は小さな水路になっている

から天井までの開口部が設けられ、外に向かって開くことで実際以上の広さを感じさせてくれる。

当初は「どんなもんかなあ」と首をかしげていたお父さんも、お客さんの反応や生き生きと働く息子夫婦の様子を見ていると、だんだん自分も「1日1日いいところが見えてくる」ようになった。特にいいと思うのは、敷地の脇を流れる川に面した大きな窓。以前は壁でふさいでいたため風通しも悪かったし、川は水害をもたらすばかりの存在で意識したこともなかった。「それが、こうやって見ると石垣もシダの緑も綺麗で、つくづくいいなあ、と思うんです」。

気持ちが明るくなれば、それが商売にも反映される。オープンして1ヶ月、店の片隅には智恵美さんがつくった小物のコーナーができて、酒と米だけだった世界に彩りを添えていた。徳三さんは、自分が納得できる焼酎だけを揃えることに心を砕いている。奥のスロップの向こうには先代が大事にしてきた精米機が見え、ここでも商品の質にこだわるカジキ商店の心意気を感じられる。「新装オープンしてから若い人が増えた気がします」とうれしそうに智恵美さん。焼酎はつくり手の人間性と考え方が正直に製品に「出る」と徳三さんは言ったが、住む人の人間性と生き方へのこだわりは家にも出る。信頼のおける素材と、施工の確かさ、空間の創造性。三代目が焼酎を吟味する目で選んだ家である。

カジキ商店の 明るい未来

それからほぼ1年。完成した店を見に行くと、懸案であった駐車場もしっかり確保され、そこから店と住まいと倉庫にアプローチできるようになっていた。店の入口は斜めに振り、ステップを設けてゆとりをもたせた。内部の床は板土間。西側に大きく開けた開口部から緑が飛び込んでくる。昔からのお客さんはあまりにキレイになった店に、「ヨカヤ? (入っていい?)」「靴、脱がなくていい?」と冗談っぽく遠回しの誉め言葉をかけてくれる。それに、耐久性を誇るLFBにしたことで、1階にこれだけ大きく壁のない店舗スペースを設けながらも2階、3階に徳三さん家族の住まいをゆったりつくることのできた。2階のキッチン脇には床

あれから10年、いかがお過ごしですか？

SINKEN STYLE 03

10年目のカジキ商店

鹿児島県始良市

建ててから10年経った今も、
近くを通ったスタッフが顔を出してくれたり、
アフターの相談が同じ人に気軽に出来たりして、
シンケンとは今でもつながっているなという
感覚があって嬉しいという加治木さん。
新築時から気に入っていたオープンな間取り、
シンプルで機能的な家の造りなど、
10年住んでみての感想は、
「やっぱりイイ！」というお言葉をいただきました。

キレイに磨かれた窓が、見える安心感に繋がっている。
明るい店内が人を招く





**家族が繋がるオープンな間取り
暮らしを包み込む木の箱**

予備校と高校に通う2人の息子さんと暮らす加治木さん一家。補習に部活に友達付き合いにと、大人以上に忙しい日々を送っているようだ。毎日の帰りは兄弟ともに遅く、家族そろっての晩御飯も最近は珍しくなったという。

3階の子供部屋は、「個室が欲しい」と言っ、自分たちで家具や棚で仕切ったこともあるけど、結局また自分たちで仕切りを取り払っちゃいました。どこにいても家族の姿が見える暮らしに慣れていたので、気配がする方が落ち着くんではないかと」と智恵美さん。

今でもお米担当としてカジキ商店に通う稔さんは「特に冬場はあたたかくて、良か(いい)ね」と話す。家中が暖かいという床暖房の効き、柱や梁をそのまま見せる構造をつくるには技術が必要ということ、そして知り合いの口から直接聞く様々な評判、「息子たちの目に間違いはなかった」と、しみじみ感じる人が多いようだ。とはいえ当初はシンケンで建てることに反対をしていた手前、「ふだんは良か家とは言わないけど」と、こっそり笑いながら教えてくれた。

「こだわりを詰め込んで建てた家だから、10年経っても、住み心地はやっぱりイイ!」です。そう感じられる家で暮らし、働くことができるのは幸せだなとつくづく思います」と智恵美さんが話してくれた。



希少な焼酎がずらりと並ぶ明るい店内。取り扱い商品の豊富さが蔵元との信頼関係を物語る

人柄と家の佇まいがお客様を呼ぶ お店づくりは、信頼づくり

始良市鍋倉、米山の交差点。多くの人と車が行き交う通りから、その佇まいと大きな窓ガラス越しに見える明るい店内がひと際目立っている。中を伺うと、オーナーの加治木夫妻がテキパキと働いているようすが見える。店内に入ると、奥さんの智恵美さんに笑顔で迎えられる。

県内100以上の蔵元の中から、焼酎づくりに対する熱意や姿勢に納得した蔵元の焼酎のみを厳選して扱っているというカジキ商店。店舗のリニューアルを果たして10年、どのように過ごしていたのだろうか。

「お店の中からも、外からも、互いに窓の向こうの様子がよく見えるので、皆さん安心してお店に入ってきてくれます



住まいも仕事場も一緒。仕事の合間を縫って家事ができるのも店舗付住宅のいいところ

す。なかには「建物を見せてください」とシンケンファンの方もみえたり、顔なじみになったシンケンの住まい手さんと家の話で盛り上がりたり」と奥様の智恵美さん。

徳三さんにも話を振るが、「オイ(鹿児島弁で俺)はあんまり話すのは好きじゃなかで」と、どこかへ消えてしまった。

インタビューとなるとシャイな徳三さんだが、取引先の開拓には余念がない。「新しい焼酎を扱うには、蔵元さんの試験みたいなものがあって合格しないとダメなんです」と、智恵美さんが教えてくれた。小さい店ながら店内を見渡すと「幻の焼酎」がずらりと並んでいる、その品揃えの豊富さこそ、徳三さんと智恵美さんがコツコツと築いてきた店と蔵元の信頼関係の証だろ



隣接した倉庫でお米を運ぶ2代目・稔さん。スロープで繋がっているため運搬もスムーズ



新築当時から使っているお気に入りのポットでおもてなし。キッチンが明るいと集う家族もうれしい

D A T A

建築概要

カジキ商店 / LLB 1007g

所在地 鹿児島県始良市鍋倉 652
 敷地面積 299.96㎡
 建築面積 73.00㎡
 延床面積 200.50㎡ (1階 68.50㎡、2階 73.00㎡、3階 59.00㎡)
 用途地域 第1種低層住居専用地域
 家族構成 夫妻、子ども2人
 竣工 2003年6月

主な外部仕上げ

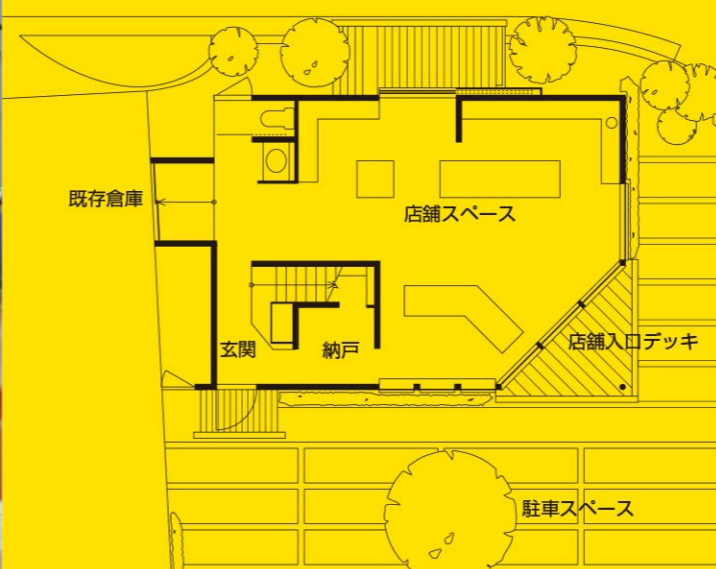
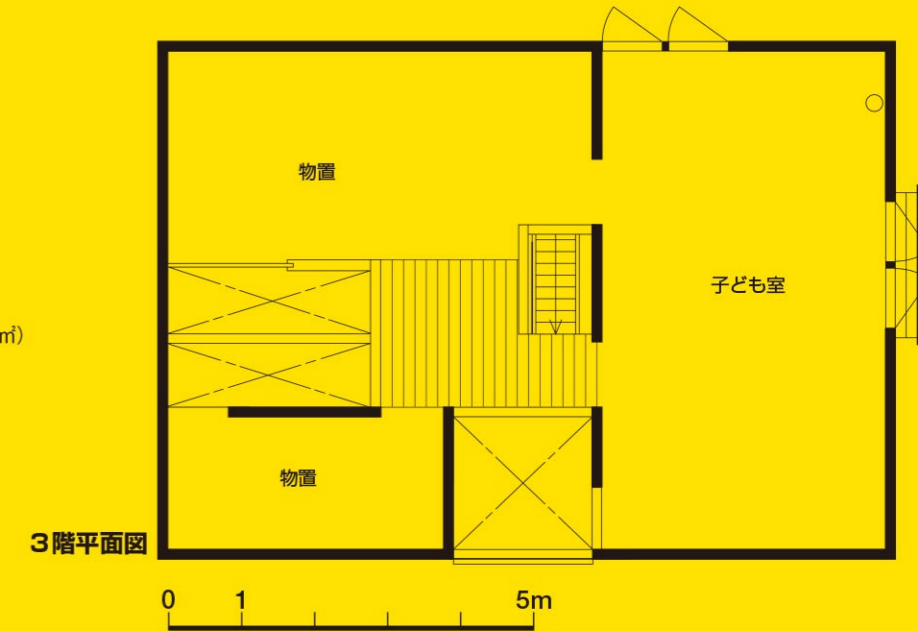
屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
 外壁 ガルバリウム鋼板(角波)張り
 建具 マーヴイン(インテグリティ)
 デッキ床 ミヒバ目透かし張り

主な内部仕上げ

床 1階：構造用合板あらわし
 2階：3層パインフローリング張り
 壁 構造用合板あらわし仕上げ
 天井 構造用合板あらわし仕上げ

お問合せ

TEL 0995-65-2007
<http://kajikishoten.com/>



配置図・1階平面図

敷地と住まいの関係

シンケンのつくる住まいは、常に居心地のいい場所に思いをめぐらせ、それをどうやってかたちにしようか、どういう住まいがいちばん気持ちよく暮らせるのかを念頭に仕事を進めています。ですからまず、それぞれの敷地をよく見てみます。敷地の周りには道の幅や位置、隣家の建て込み具合やかたち、住まいから眺められる緑地や景色の状況など、いろいろな条件を検討して、その場にふさわしい「馴染みのいい住まい」をつくりたいと考えています。

あまり意識しないかも知れませんが、わが家とふが住まいは、いやでも毎日毎口目にするものです。部屋の中だけ

でなく住まいの外観も常に目にしますから、「美しいな」とか「カッコいいな」とか「気持ちいいな」って思いながら見ることもできるようにしたいと思っています。

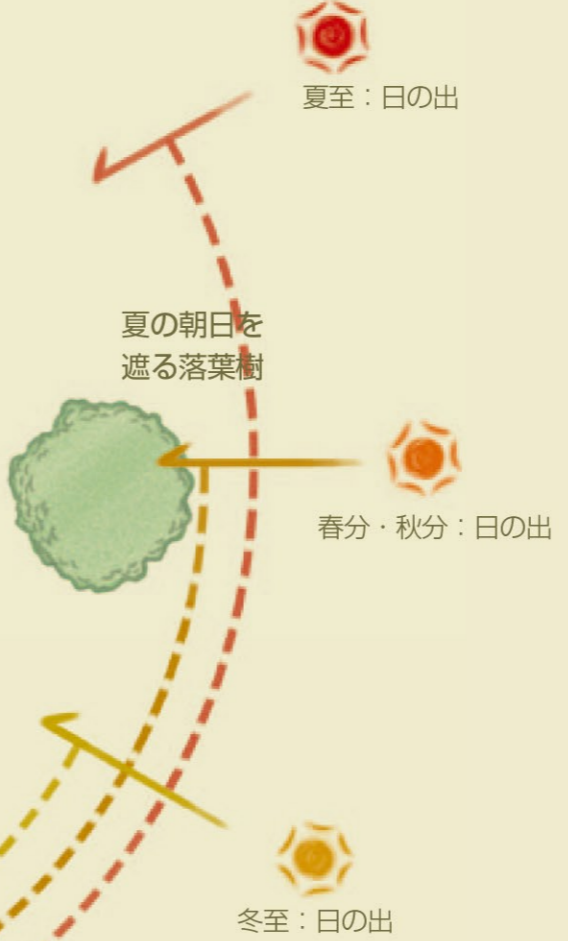
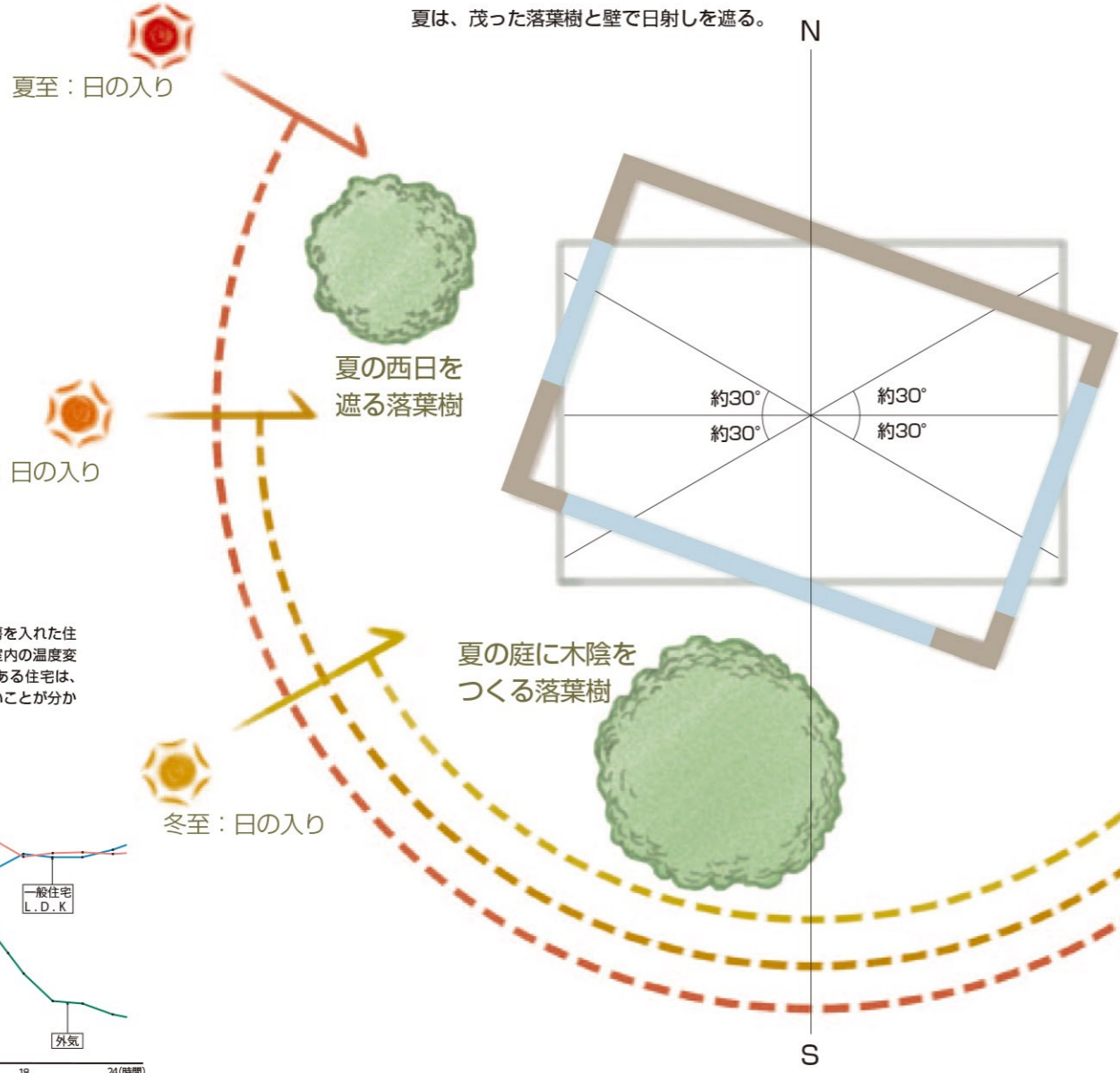
シンケンの住まいづくりの原点は自然です。そして、太陽は自然を掌る万物の源。そのことを深く意識して、住まいづくりに活かす。それがシンケンスタイルです。ふつうの住まいと比較すると、少しよすが違うように見えますが、それは太陽の軌道や日の出、日の入りと深く関係してきます。敷地がどんな形状であったとしても、寒い冬こそたっぷりと太陽の熱を効率よく

利用できるように住まいと、窓の位置や形を配置します。また強い夏の日射しには、庭に落葉樹を配したり、窓にスクリーンをつけるなどして、上手にかわすようにしています。樹木はこうした日射しの調整とともに、住まいをその土地にじっくり馴染ませるのにも、たいへん大きな効果があります。

それぞれの住まいに植えられた樹木が大きく育てば、街は潤いのある緑に染まるはず。住まいが心地いい空間であること、そして暮らす街の居心地がいいことは、こんな風につながっていきます。

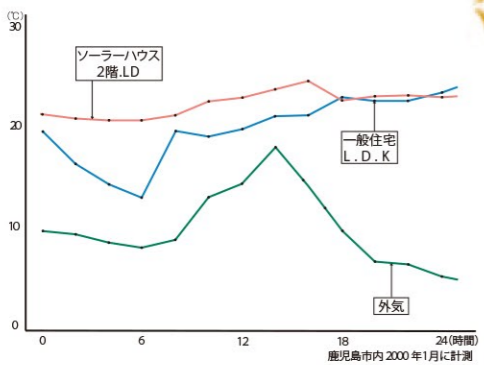
建物の向きを最大30度西へふった場合

冬は、落葉樹が葉を落とし、広く開いた東と南の窓から家中にたっぷりと太陽の光が差し込む。
夏は、茂った落葉樹と壁で日射しを遮る。



戸外と室内の温度変化

グラフは冬季の外の温度と、一般的な暖房を入れた住宅、ソーラーを入れたシンケンの住宅の室内の温度変化を表しています。ソーラーシステムのある住宅は、室内の温度が外気温にあまり左右されることが分かります。





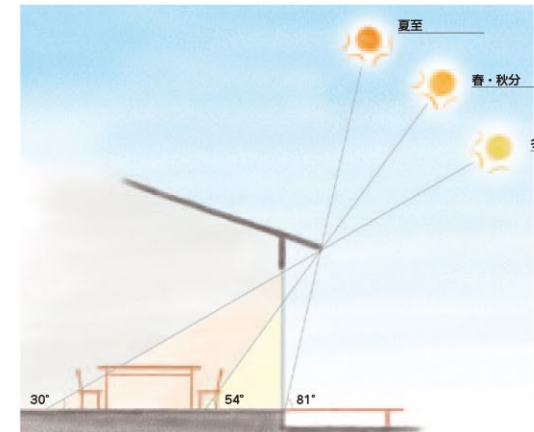
10月下旬。家の奥までのびたやわらかな夕日が団欒をあたたく包む

日射角度と時間

太陽の高さは季節によってかなり違ってきます。この違いは住まいの中に入ってくる日射しの長さに関係するのですが、いちばん低い冬至とでは、入射角度が約50度も開きがあります。加えて日が出ている時間もずい分変わります。真夏の日射時間は約14時間、真冬は約10時間と約4時間の差があるのです。

夏の直射日光はなるべく避けたいし、特に強い西日を室内に入れてしまうと、居場所がなくなってしまうほど家の中を暖めてしまいます。反対に冬は、なるべく家の中に日が入るようにしておけば、夕方過ぎまで自然の熱で住まいを暖めます。

窓の大きさやかたち、位置、屋根の向き、庇の長さなどは、こうした季節による太陽の位置や角度によって決めていくことで、居心地がかなり変わってくるのです。



正午の日射しの角度

軒の出を60cmにしておくと、高さ2mの開口の場合、夏至のお昼ごろの直射日光はほとんど入らず、春分、秋分時期で0.8m程度、冬至になると約2.7m奥まで日が入ってくる。

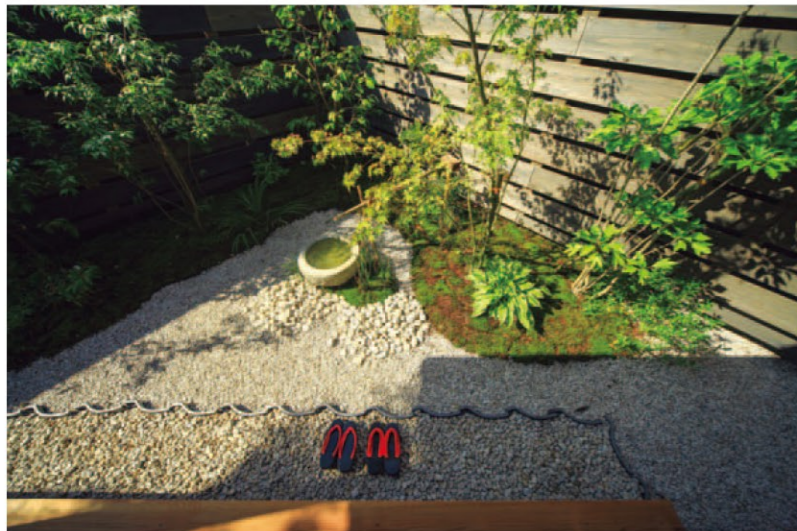


写真中央、季節で異なる太陽の動きを計算して配置したシンケンの家

敷地の角に視線を運ぶように建物と窓を配置することで、のびのびとした室内空間を実現。建物の角の壁の向こうは境界が迫る



四隅に三角の庭が生まれることで、狭い敷地が活かされている。三角の庭があることで、隣家が全く気にならない



庭の緑が住まいの内と外に豊かな表情と彩りを添える

庭は住まいと一体のものとして考えます。植える樹木の種類や大きさ、配置によって、住まいの印象や美しさはまったく違ってくるからです。バランスを考えて植えた1本1本の木にはそこにある理由がちゃんとあるのです。たとえば庭の南側に大きな落葉樹。この木は葉の繁った夏に強い日射しを遮り、葉が落ちる冬には日を住まいの中へ通すこととなります。また、お隣の家との間に植えた常緑樹は、双方の視線が合わなくてすむ緑の塀になります。よく使う樹木の種類は、カツラやモミジ、ケヤキ、ヤマボウシ、ハナミズキなど雑木林にあるような木です。こうした落葉樹は、瑞々しい新緑や色とりどりの開花、目に鮮やかな紅葉など四季折々の変化に富み、身近な自然が楽しめます。

シンケンの住まいはお隣の住まいと平行にならないものが多く、四隅に三角に近いかたちのスペースがよくできます。こうした三角の空間は、横長で長方形のものより大きな木を植えたり、庭に奥行きを出すときには、とても有効に活用できます。

庭のかたちと緑

SINKEN STYLE

07

12の方法

角は基本的に壁なので、境界に近くても気にならない

道路から玄関までのアプローチを長くとりやすく、ダイレクトに玄関がみえにくい

西側に落葉樹を植えば、夏の日射しを遮り、冬に光を通す

三角形の庭になるが、室内から見たとき奥行きがあり、比較的大きな木も植えやすい

隣家との距離が長くなり、視線も重なりにくい

境界線に平行に建てない場合

道路から玄関アプローチの距離が短く、道路から直接玄関が見えてしまう

あまり大きな樹木は植えられず、隣家の壁や窓が近い位置にくる

南側の庭は長方形だが、一定の奥行きがなく、テラスをつけても横長のかたちに。大きな木も植えにくい

敷地境界線に平行に建てた場合

ソーラーシステム



自然エネルギー利用で快適に

シンケンの住まいは、全ての建物に「そよ風」というパッシブソーラーシステムを採用しています。

冬場は、屋根面で集めた太陽熱をそのまま床下に運び、基礎のコンクリートに蓄熱することで、家全体をじわじわと暖めることができます。昼間に太陽が顔をかせばソーラーシステムが

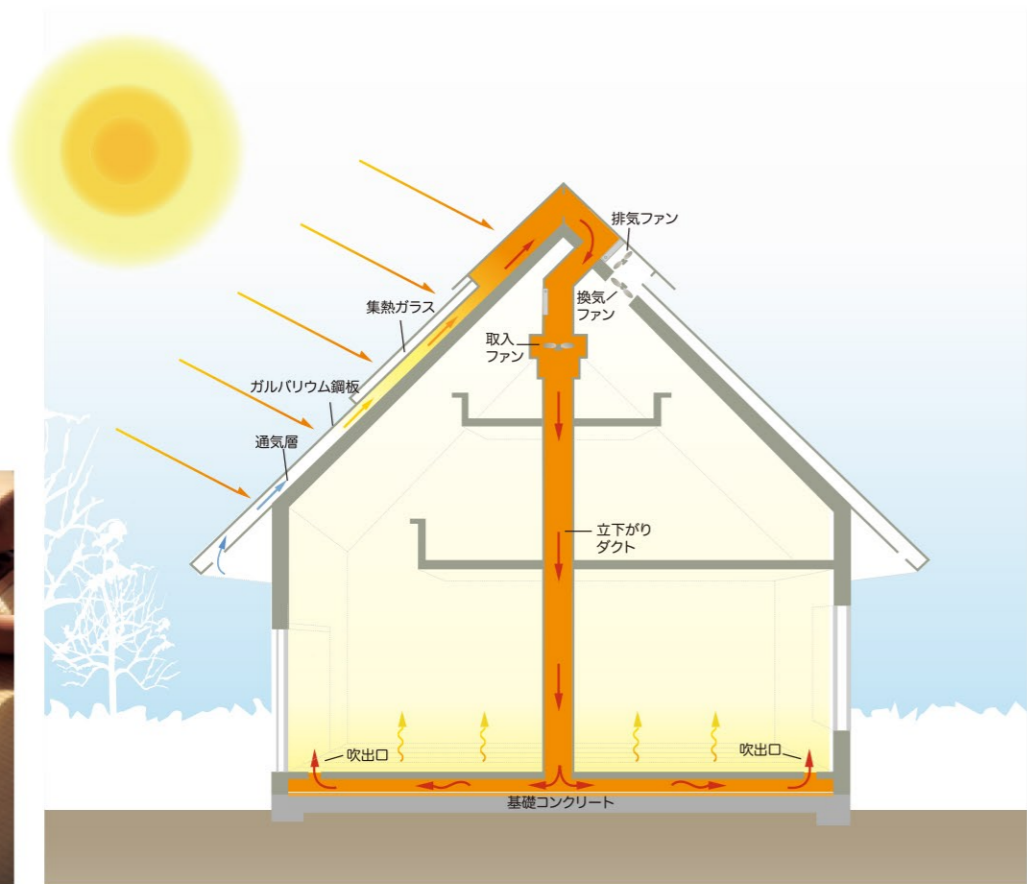
働くので、一日中ぽかぽかとした陽だまりのような暖かさを得られます。

夏場は、夜間に屋根面で起こる放射冷却を利用して冷気を床下に蓄えて室内を冷やし、昼間は熱くなった室内の空気を屋根から外へと排熱します。

近年一般化している太陽光発電システムとは異なり、降り注ぐ太陽熱の

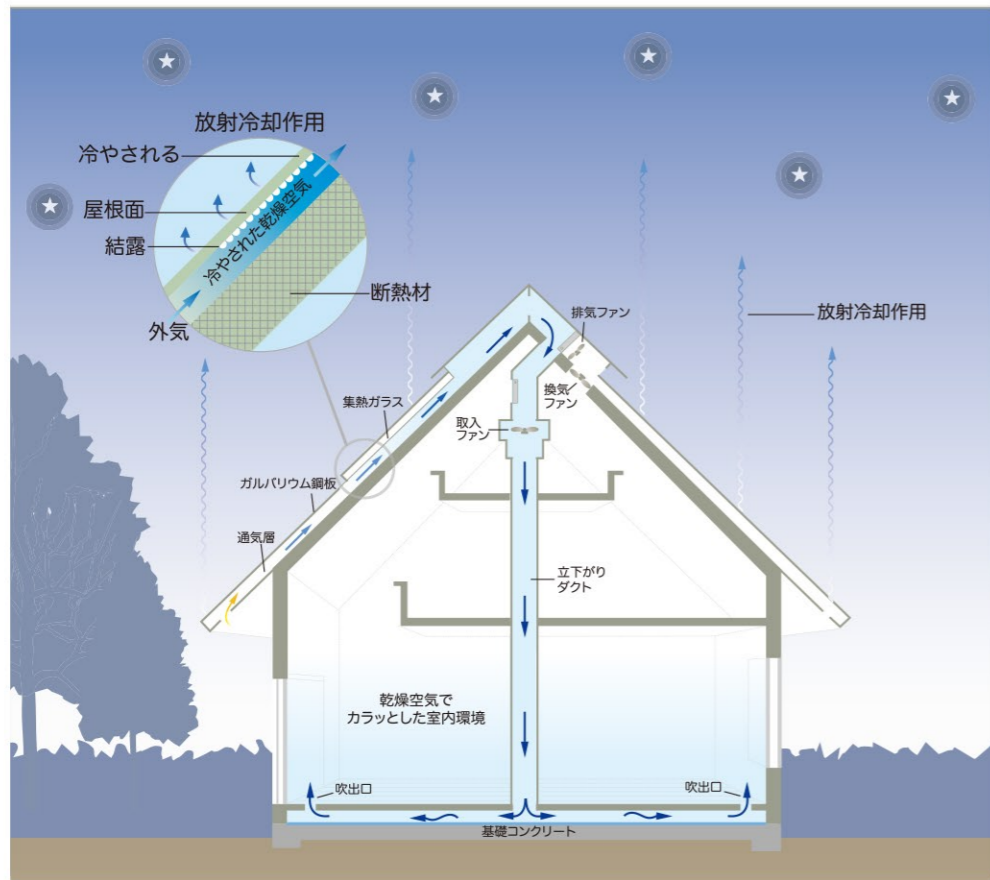
暖かさをそのまま生かしたソーラーシステムが「そよ風」です。もちろん太陽光発電システムを搭載することも

可能ですが、シンケンは快適さを機械に求めすぎず、いつの時代も変わらぬ自然の心地よさを住まいに取り入れることが、環境にやさしい住まいづくりの基本であると考えています。



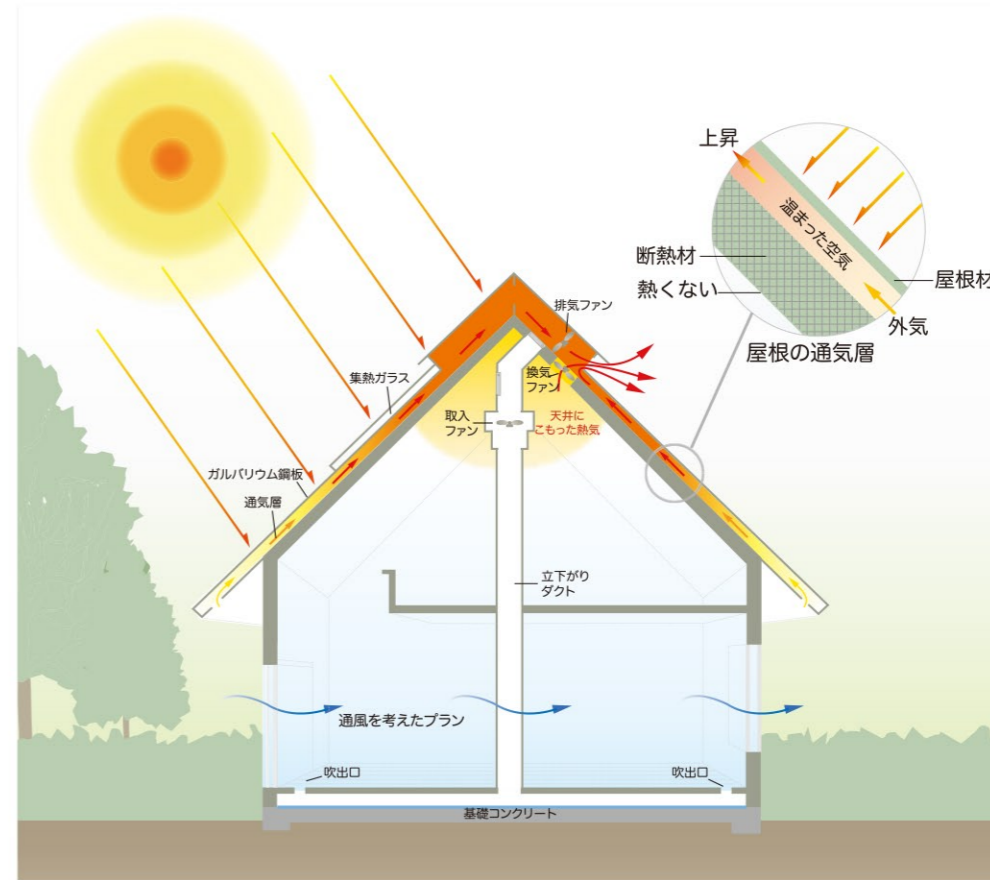
冬のしくみ

昼間、軒先から入った外気は、屋根の内部を上昇しながら太陽熱で暖められ、ガラス面の下ではおよそ60℃に達します。この暖気が、取り込みファンによってダクトを経由して床下に送られ、基礎のコンクリートに蓄熱されます。コンクリート内の熱は時間をかけて放熱されるため、夜間でも床表面温度は平均で20～25℃、室温もおよそ15～20℃と、家全体が陽だまりのような自然の暖かさに包まれます。



夏の夜のしくみ

夏の夜、大気温度は地表の建物よりかなり低くなります。夜間に軒先から取り入れた空気は屋根面の放射冷却を利用し、湿気を取り去ったドライな冷風にすることが可能。その冷気を床下から室内に送ることで、家の中の空気を爽やかに調えます。



夏の昼のしくみ

夏の室内を不快にするのは熱した屋根、天井からの放射熱。そこで、断熱材により屋根からの熱をシャットアウトしたうえで、屋根の中にたまる熱を排気します。加えて、室内で高温になった空気も、強制的に外へと排出。夏には、循環機能の使用により、エアコンの冷風を床下へと送り込み、家全体に涼しさを広げることも可能です。



住まい

無二の 04

シンケンスタイルはライフスタイル
2003年の湯楽庵
竣工:2003年7月

自宅に温泉を引きたくて、
指宿の土地を求めた平山さん一家。
木の質感とソーラーシステムの考え方が
気に入って建てた住まいに、
平山さんのこだわりが詰まったお風呂がつけられました。
こんこんと湧く約 60 度のお湯、
木の香りと素肌にやさしい石の触感、
湯船につかると広がるバスコートの景色。
日常の中に、極上の楽しみをつくるので
「湯楽庵」といいます。

P73~79 / 2004年発刊「LONG LIFE BOX」より再掲載しています。



自然環境と調和した無理のない暮らし



爽やかな朝日が入る浴室。
温泉の表面に光の輪がゆらゆらゆれ、
絶え間なく湯が浴槽からあふれ出していく

ゆったりと温泉に浸たる平山さん。
上部庇は2階デッキ部分。
手前には足湯用に石組でたまりをつくっている

けるところと、奥さまの故郷、鹿児島にねらいを定めた。「不動産屋さんに旅館の経営者と勘違いされて、500坪の土地に案内されたこともあった(笑)」が、お義父さんと二人三脚で土地探しに邁進すること約2年、やっとこの海辺の敷地に巡り会うことができました。土地探しと並行して行っていたのは住まいの研究。住宅展示場では、木がふんだんに使われた北欧の輸入住宅に

湯楽庵は1階に温泉、2階にリビングダイニングがある。こげ茶の板が横に張ってあるところは、デッキ部分



ワイアンが眠たげに流れる真夏の指宿駅前商店街。太陽は容赦なく照りつけ、日影を探してやっと歩く、そんな午後。しかし、目指す「湯楽庵」で待っていた平山さんは涼しい顔で出迎えてくれた。
「どうぞ、どうぞと促され、2階への階段を上ると正面の大きな窓からお隣の緑越しに雄大な海が……。でも景色はさておき、まず口から出たのは「涼しいー!」の一言。窓の外の灼熱地獄はまるでウンのように、私たちは吹き抜ける風の中に立っていた。
「風通しについてはかなり考えましたからね」と平山さん。今の時間、この海側の窓から風が入ってきて、午後になると今度はデッキの方から風が抜けるんです。この地域の気象にあった位置にちゃんと窓が開けられているから涼しいんです」。

無類の温泉好きの家じゅり

平山さん一家は数年前まで千葉県に住んでいたが、転勤と引っ越しが続く暮らしに終止符を打つべく、土地探しに乗り出すことにした。自らの家「湯楽庵」と名づけるくらいだから、言うまでもなく無類の温泉好きである。家を建てるならとにかく温泉が簡単に引



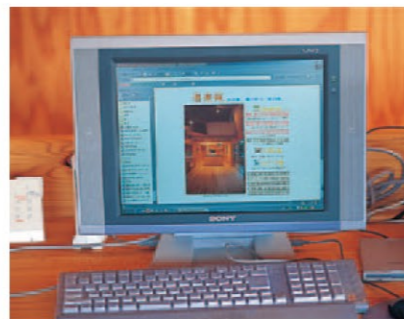
木ノ実さん、海斗くん、泰地くん



らない子どもたち。おにいちゃん海斗君と泰地君。「海」と「地」がお日さまを浴びる木の家で育っていく。

ダイニングの柔らかな灯りが漏れる夜、勤め帰りのお父さんは遠くからそのオレンジ色の光を見て屋根の下の家族を思うのだ。そしてまた風呂に入り、月明かりの下でビールを飲む。世の中にこれ以上の何がある？

越し屋根の下は排気口になってる



平山さんは湯楽庵の建築をきっかけに、その家づくりの楽しさと苦労をホームページで公開している
アドレスは、<http://www.14.plala.or.jp/yurakuan/>

「親が引きこもっていいじゃない、と思って」のこと。パソコン周辺機器が納まるワゴンも、寸法、配線、電話線ジャックの位置など実に細かい！

さて、この家に引っ越してすぐ、平山家には新しい家族が誕生した。「泰地」と書いてタイチ。地を鎮める、ぴったりでしょ」と赤ちゃんを抱く木ノ実さん。生まれた時から温泉に浸かり、初めて歩く床が無垢の杉だとは、なんてぜいたくなんだろう。しかも、知ってか知らずか、まったくお風呂をいやが



デッキからは錦江湾が広がる、絶好のロケーション

毎日の生活で味わう、 極上の時間

1階はもうほとんどがこの風呂のためにあると言っている。一方2階は、LDKと和室が階段を中心にぐるぐるとつながる広々ワンルーム空間。フロアすべてが「家族が顔を見ながらオープンに過ごせる場」なのだ。キッチン「背を向けたくない」という奥さまの木ノ実さんの希望に沿ってシンクとコンロの両方を備えたアイランドに。周囲を回りながら作業するこのキッチンは「湯楽庵オリジナルぐるぐるキッチン」だ。リビングの中央に夫妻共有のパソコン用デスクを設置したのも

あれから10年、いかがお過ごしですか？

SINKEN STYLE 04

10年目の湯楽庵

鹿児島県指宿市

前回の取材時には庭いじりに全く興味がなかったというご主人の久貴さん。10年後の今では、トライ&エラーを繰り返しながら、プロ顔負けの園芸家ぶりを発揮されています。家づくりと造園について詳しく紹介した「湯楽庵ホームページ」もコンスタントに反響があり、温泉旅館の経営者や、県外からの見学の方も訪れたことがあるそう。

湯船に浸った目線にあわせてつくられた評庭。四季折々の風情が湯船を彩る



十和田石の浴槽は湯を張ると青く澄んでゆらめき、周囲の景色を映し出す



悠々とした時の中で 庭の生長をじっくりむ

「家を建てる前は、庭には興味も知識もなく、すべてお任せと言ったくらいなんです」と振り返る久貴さん。とはいえ、庭いじりが趣味になるのに時間はかからなかったようだ。「水やりや剪定をするうちに、それぞれの木に愛着がわいてきて、育て方を勉強するようにになりました。そのうち空いているスペースに苗木や草花を買ってきては植えるようになってきて」。もっかの関心ごととは、通称「ごろごろ部屋」と呼ばれる和室の前の庭づくりだ。「4年ほど前から、苔の定着に取り組みだしました。半日陰でも育つ苔のサンブルを10種類ほど取り寄せて、1年かけて観察しました。その結果、庭の環境に合うハイゴケ、ホソバオキナゴケ、シッポゴケ、ヒノキゴケの4種類が無事に定着しました。ホームページでもそろそろ苔の庭のメイキングを紹介しようと思っています」。

現在単身赴任中のご主人。庭の手入れはたまに帰って来た時だけだというが、苔は雑草対策になるし、水をやれずに乾いてしまっても、休眠状態になるだけなので安心だという。

「はじめの頃は植物に対してすぐに結果を求めていたんですけど、日当たりや、風、水はけなどの条件によって生長のしかたは全然違います。じっくりと観察して、長い目で見て育てないとダメなんです」と語ってくれた。

南風がそよぐリビングに 笑顔の輪が広がる

平山家の中心は2階リビング。3階には高校生になった長男・海斗くんの部屋があり、立派な一枚板の机もあるのだが椅子がない。「ここは寝るときぐらい。勉強はいつも2階でします」と話す海斗くん。久貴さんいわく、「3階を間仕切って子ども部屋をつくった時に立派な机もシンケンさんに取り付けてもらったんですけど、今はきっぱりと机は必要なかったと言えますね。やっぱり臨機応変に考えることが必要なんです」ということだ。

「元氣いっぱいの次男・泰地くんの面倒見も良く、料理も絵画も得意という多才な海斗くん。学校でも有名だという絵の才能は、学生時代から美術に親

しみ、今もサークルで筆を走らせる奥様・木ノ実さんから受け継いだ様子だ。

リビングのテレビの横にはイーゼルに立て掛けられた木ノ実さんの作品が置かれている。「大きい絵を描くには引いて眺めるためのスペースが必要なんです。じっと絵だけを見ているイメージが固まってしまうのでテレビを見たり気分転換をしながら自由なイメージを膨らませてます」と、もうひとつの趣味である洋裁をチクチクと仕立てながら、話してくれた。

シンケンの家に暮らして10年。「居心地のよい住まい」を常に追い求め続けてきた久貴さん。単身赴任中の現在は、遠く離れた地から海辺の我が家と温泉を（涙ながらに）愛おしく思い、「家族と一緒に成長する家」を優しく見守っているようだ。



心地よい風が抜ける2階のリビング。子供たちの勉強部屋でもあり、木ノ実さんの絵画の制作の場でもある



温泉三昧の休日。クスノキの木陰でハマグリをつまみに一杯楽しむ後のひととき

釣りは兄弟共通の遊び。1時間で20匹以上の小アジをゲットし、調理は海斗くんが担当する





数種の苔や苔の庭にチャレンジ。環境によって数種類の苔を植え分け、試行錯誤を重ねてきた。苔は定着すれば雑草も生えにくく、手間いらすとか

D A T A

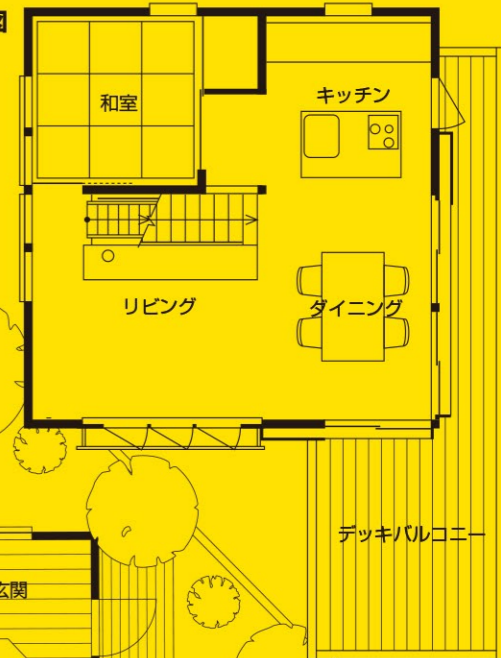
建築概要 湯楽庵 / LLB707g

所在地 鹿児島県指宿市
 敷地面積 261.96㎡
 建築面積 59.25㎡
 延床面積 148.75㎡ (1階 59.25㎡、
 2階 49.00㎡、3階 40.50㎡)
 用途地域 第1種住居地域
 家族構成 夫妻、子ども2人
 竣工 2003年7月

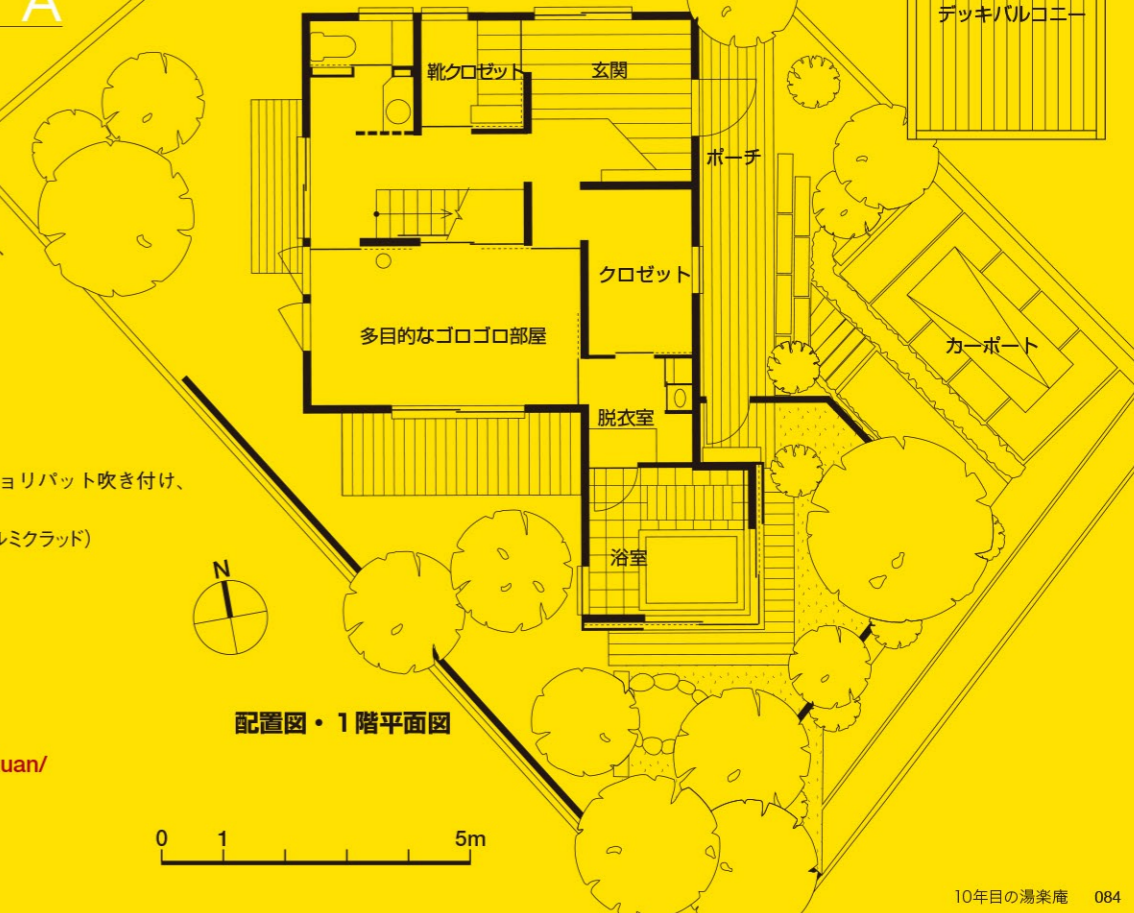
主な外部仕上げ
 屋根 ステンレス鋼板横葺き
 外壁 モルタル刷毛引きの上弾性ジョリパット吹き付け、
 ウェスタンレッドシダー縦張り
 建具 マーヴイン(インテグリティ、アルミクラッド)
 デッキ床 米ヒバ目透かし張り
 主な内部仕上げ
 床 津江杉板張り
 壁 構造用合板あらわし仕上げ
 天井 構造用合板あらわし仕上げ

<http://www14.plala.or.jp/yurakuan/>

2階平面図



配置図・1階平面図



洗濯物の干し場と動線

毎日のお洗濯は、その人のこだわりが表れるところ。とにかく効率を優先！という場合は乾燥機を使うのが手っ取り早いですが、シワや縮みが気になるのでやっぱりきちんと干したいという方もいらっしゃると思います。普段は乾燥機だけど、大事にしているお洋服だけは干して乾かしたいという場合もある

でしょう。

シンケンの住まいは、床・天井・壁にJパネル（P114参照）やモイス（P124参照）などの優れた調湿作用を持った素材を使用しているため、梅雨時期でも「夜に部屋干しすると次の日には乾いている」という住まいのお話をよく伺います。洗濯物はきちんと

干したいけど共働きなので……というご家族にとっては嬉しい特徴です。

また、お洗濯は「動線」が重要。脱衣場、クローゼット、室内干しスペース、外干しスペースの位置関係をプラン時によく検討することで、お洗濯にかかる労力を最小限に抑えられる住まいが実現します。



洗う・干す・片付ける
素早くできる家事の動線

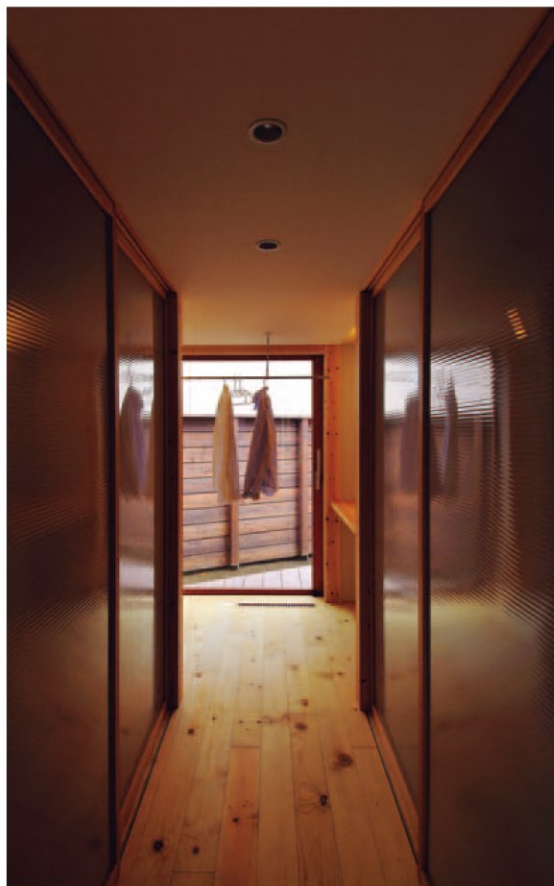


浴室前の洗面脱衣室。洗う→干す→片付けるが、このスペースで完結



基本は室内干し。すぐ横の屋外干し場への移動も簡単

室内干しは乾きやすさが大事
空気を調えるソーラーとモイスの壁



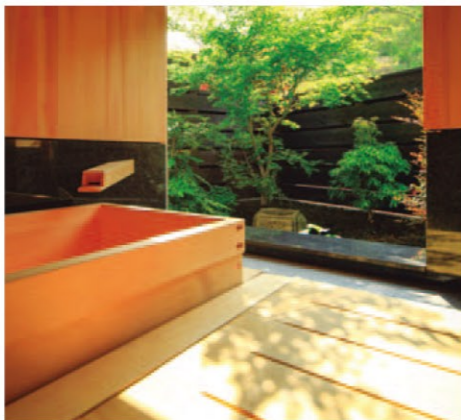
木の香りの浴室

お風呂は一日の疲れを癒すリラクゼーションの空間です。予算はかかりますが、心身ともにリラックスできる、木の香りのする浴室を薦めています。木の浴槽にしたり、洗い場の床部分に木を使ったり、壁を木にしたりして、

浴室に木の香りを漂わせます。それから、浴槽にゆったり浸かりながら、何を見るかも重要な課題です。低い位置に窓を開け、季節の移り変わりが楽しめるような庭をつくったり、眺めのよい場所に浴室を配置することで木の香

りと湯けむりの中で、戸外の風景を楽しめる浴室ができます。床のスノコは、お手入れしやすくするために簡単に取り外して通気・乾燥ができるようにつくられています。

時を忘れさせる演出



庭もお風呂の一部。うれしい見え



のぼる湯煙に、桜島の噴煙。そして朝日がゆっくりと空を染める。計算された絶景

温まりながら、
五感を満たす心地よさ



寄り添う

自然に 05

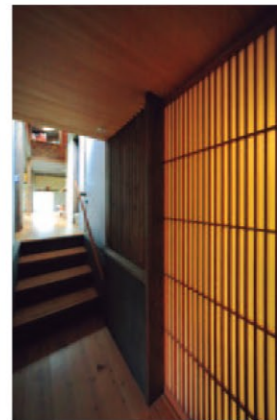
シンケンスタイルはライフスタイル

2003年の前田さんち

竣工:2003年10月

根っからアウトドアが好きで、
より身近に自然が楽しめる住まいを
建てることにした前田夫妻。
リビングにいても、ダイニングにいても、浴室にいても、
眼前は左右いっぱいに広がる海があります。
いつ見ても飽きないその眺めを、
飽きない住まいから楽しんでいます。

P91~96 / 2004年発刊「LONG LIFE BOX」より再掲載しています。



極上のひととき



ゆったりと湯船に浸かった視線の先も、雄大な大海原。ウッドデッキの向こうには、水風呂用の浴槽が置いてある



浴室北西側の壁は、隣との境界につくったコンクリート打ち放しの壁を利用したもの



南西に向けたリビングダイニングは、大きな開口部のどこからも大海原が望める空間。友人知人たちは思い思いの場所に陣取る

その日、一年中波が立つという海はめずらしく風が止んだ。水平線はどこまでも続き、入道雲がわき上がる。白い砂が美しい吹上浜は、鳥取砂丘と九十九里浜と並び称される日本三大砂丘のひとつだと解説してくれる前田さん。西の彼方にかすむ鳥影を指して「ほら、あれが朝鮮半島ですよ」なんてまじめな顔して言うが、いくらなんでもそこまでは見えない。

シンケンの住まいにハマっちゃう

鹿児島市内から車で30分ほどの江口浜は、前田さんが20年前からサーフィンに通っていた浜である。もともと市内に住んでいたが、毎週毎週通うならいっそこっちに住んだ方がいい、と土地探しに乗り出した。といっても、直接のきつかけとなったのは、妻の由美さんに送られてきた『シンケンスタイル』という1冊の本。何気なくめくると友人の家と笑顔が載っていて、早速遊びに行ってみたらそこは別世界だった。「2月の寒い日だったんですよ。でも中に入ってみると暖かい！ エアコンで人工的に暖めているのと違って、いつまでいても飽きない自然なあったかさなんです」と大蔵さんが言えは、「私はまず入る前に家全体の雰囲気が入りました」と由美さん。

「角を曲がった瞬間、街並みの中でそこだけフツと違う空間が広がっていました。かといって変に浮いているわけじゃなくて、緑と一体になっていい感じに馴染んでるって感じ。気持ちよくてついつい長居してしまっただけ。それまで家を建てるつもりなんかまったくなかったのに、友人宅で洗礼を受けた前田夫妻は完璧に「シンケン教にハマってしまった」。

建てよう！と決まればあとは行動あるのみだ。北東斜面で日当たりが悪かった元の家は売りに出し、吹上浜の一部の江口浜で土地探しを開始。周辺の住宅地は海からの風を避けるように山の裏側に広がっていたが、どうしても海が見えるところに建てたいと、知り合いにかけあって、交渉の末、やっとどうにか海側の敷地を手に入れた。

自分たちが納得するライフスタイル

ところで、話は変わるが前田邸の施主は大蔵さんではない。「うちは働く人と遊ぶ人がきちんと分かれているんです(笑)」と言う「働く人」というのは小学校の先生をしている由美さんなのだ。つまり大蔵さんは主夫である。3年前に結婚するまではごくふうのサラーイマンをしていたが、「景気が悪くなってなんとなく居づらくなって、由美さんに相談すると「辞めれば」と頼もしい言葉を頂戴できた。それで堂々とスローライフを楽しむ道を選んだというわけ。買い物と炊事は大蔵さんの仕事なので、新居のプランを練る時も、「海が見える気持ちいいお風呂を」と希望したのが由美さんで、「玄関を入っ

自転車やサーフボードが映えるシンプルで柔らかな木肌の室内



トイレの壁にはすだれをかけて絵葉書を飾る



低く抑えた片流れの屋根の下に包まれるようなワンルールのLDK。その階段の裏側にある小さなベッドルームと斜めに張り出したバスルームがオープンにつながっている。コンバクトだからこそ斜めのラインが効果的に働いて、変化に富んだ空間の広がりを感じさせてくれるのだ。「西の海に太陽が沈んでいくのを風呂から見るのは最高ですよ。もちろん2人でね!」。水風呂好きの大蔵さんは浴室のデッキの先に骨董屋で見つけたという古い石風呂を設置した。夜は水面に反射する月の光を見ながら熱い湯に浸かり、素っ裸で外に出て水風呂にザブーン! 昼は海から帰ってまず水風呂にザブーン! デッキからキッチンに入ってビールを飲んで……、おお! 素晴らしき主夫生活。人生楽しんでますねー、と言う

気持ちよく暮らすことが、自然につながる

迫力の露天風呂をつくってくれた。



洗面所横の寝室の天井には大きなトップライトがついており、満天の星空を眺めながら寝ることができるという

大蔵さんが慣れた手つきで魚をさばく



しかし、大蔵さんの毎日は超多忙である。家事の台間を縫ってサーフィン、ロードバイク、キャンプ、ヨット、釣り……そして、立ち上げたばかりのNPO団体「江口浜ビーチサービス」の理事として、マリンスポーツの振興や、ライフセービング、ビーチクリーン活動もこなさなければならぬ。もちろん由美さんも休日には一緒に遊びに行くので、遊び道具の量もハンパじゃない。それでガレージと家がほぼ同じ面積になってしまった。そのガレージからバスルームを通って海側までスドーンとRC打ち放しの壁が一直線に伸びている。「北西の風が強いので板塀をつくってください、とお願したら、社長が、鉄筋コンクリートにしましょう、って勝手に鉄筋コンクリートにされちゃったんです。これがまたいいお値段で……」と苦笑する大蔵さん。でもこれが大正解。敷地境界とお風呂の壁と風除けと目隠しを兼ねた一石四鳥の鉄筋コンクリート壁は、構造とインテリア、外と内を一体化して大



玄関や寝室、キッチンの上部につくったL字のロフトスペースは、作業などができる場所と納戸のようにものをしまう場所の2つに分けて使っている



2007年2月。暖炉の灯火は冬の楽しみのひとつ



水平線に沈む夕日を見ながら、デッキで1杯

と、「ときどきズルイと思うけど、一緒にいると楽しめますから」と由美さん。「でも、この家に引っ越して来てから、あんまり居心地よくて私も朝出勤するのがイヤになっちゃう(笑)」。

この地名である江口蓬萊の「蓬萊」は、もともと彼岸を指す言葉、つまり天国のように素晴らしいところ、って意味だという。海と山で気候が分かれているので四季が2倍楽しめる。シンケンの家を建てたのは、自然と共に生きてきたから。NPO活動もこれらももっと充実させていくつもりです。

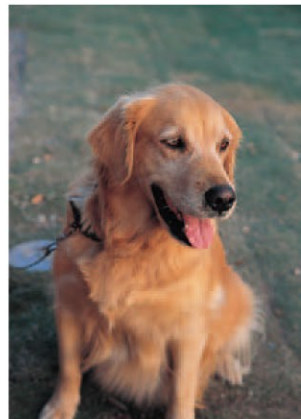
今、地元の人だけでなく、県外、国外にもネットワークが広がっています」と大蔵さんは満足そうに微笑んだ。

本当にやりたいこと、必要なものだけを見極めて、イヤなことは無理してやらす気持ちよく暮らすって、簡単にできそうできないものだ。そうやって改めて見ると、前田夫妻の暮らしているようで、実は深い人生観に基づいて生きているのだ、きつと。

「江口に新しい文化をつくる！」と意気込む大蔵さんの夢はでっかい。

いつも笑顔の奥様、由美さん。右は家族の一員、フィンちゃん

片流れ屋根のシンプルな外観。デッキアプローチの奥が玄関



あれから10年、いかがお過ごしですか？

SINKEN STYLE 05

10年目の前田さんち

鹿児島県日置市

10年経って、ご主人の大蔵さんは相変わらず主夫業に大忙し(?)。シンケンのお家のプランが持つポテンシャルを最大限に引き出すべく、どう暮らしを「デザイン」していくか？大蔵さん流のやり方を、フランクに、そんぶんに語っていただきました。

「海を愉しむ家」をデザインすると、「海を見ながら料理ができるキッチン」が出来上がった





暮らしのデザインは心地いい空間づくり

取材に訪れると、顔を合わせるなり「デザインとは？」という問いを投げかけてきたご主人の大蔵さん。思わず「ごもると、返ってきた答えは「整理すること」。なるほど、「デザイン」というと、つい意匠や装飾と同義に考えてしまいがちだけど、大蔵さんの解釈は、「リノベーションではなく、背伸びをせずに身の丈で、だけど住まいに



朝日が揺らめく窓辺で。愛犬ロコと

負けない暮らしを営むための整理整頓する力」とのこと。「うちはソファもベッドも家もコンパクト。スタイルに合わせてスリムフィットしているから美しいんです。オリジナルのプランに添うように家具やモノを配置すれば、心地のいい居場所がいくつもできる。朝はあっちのソファ、昼はこっちのハンモック、夜はストーブの前と、家中でノマドを楽しんでいます」と笑う。

その隣には「10年経ってやっと庭木が勢いづいてきて、ホントにうれしい



星降る空を眺めるトップライト付きの寝室。めぐる朝はサンライズの光芒によって目を覚ます

です」と奥様の由美さん。潮風が強い海辺の土地なので根付かない木もあつたが、ダメかと思つた玄關脇の桜の木は、由美さんの地道な手入れの甲斐あつて枝葉を空へと伸ばし始めた。春は桜の木の下に据えられたハンモックに身を預け、花びらが揺れる木漏れ日の中で本を読んだり、夏はそよ風に吹かれながらまどろんだり、極上の時間を楽しむ大蔵さん。由美さんの大きな包容力があつて、のびのびと出来る庭木と主夫の大蔵さんなのである。



海に向けたリビングには夕方まで日が差し込む

居心地の良さは国境を越えて異国の友人をもてなす休日

ALT(日本の学校で外国語授業を補助する助手)として日置市に赴任中の、イギリス出身の英語教師ロビーさん(24歳)。大蔵さんが通う英会話教室で出会った2人、いつしか海辺の住まいで食事をもにする仲になった。「言葉で話すより、家を見てもらった方が人となりがわかると思つて」と、持ち前の人懐っこさで自宅に招いた大蔵さん。倍以上も年の差がある大蔵さんとロビーさんだが、(大蔵さんの価値観や考え方が日本人離れていることもあつてか)2人はすぐに意気投合。由美さんを交えて、片言の英語と、片言の日本語を駆使しながら、身振り手振りでの会話を楽しんでいる。

ロビーさんの母親はスコットランドの出身。厳しい冬を知る彼にとって、南国の日射しを浴びた前田邸は日本で出会った最高の住環境。その第1印象は「アメージング!」の一言だったそう。辞書を片手に言葉に詰まるたびにページをめくる大蔵さん。ときにエッジの効いたジョークを挟みながら、異国の友人を手作りの料理とスープでもてなす。「英語を教えてもらう代わりに」と、大蔵さんの指導でサーフィンをはじめたロビーさん。海と共に暮らす歓びにふれた彼は、一気にサーフィンの魅力に取り付かれ、昨春秋には前田夫妻とともに種子島へサーフトリップに出かけたのだとか。

D A T A

建築概要

前田邸 / LLB808g

所在地 鹿児島県日置市東市来町
敷地面積 482.30㎡
建築面積 70.00㎡
延床面積 102.00㎡ (1階70.00㎡、2階32.00㎡)
用途地域 無指定 (都市計画区域外)
家族構成 夫妻
竣工 2003年10月

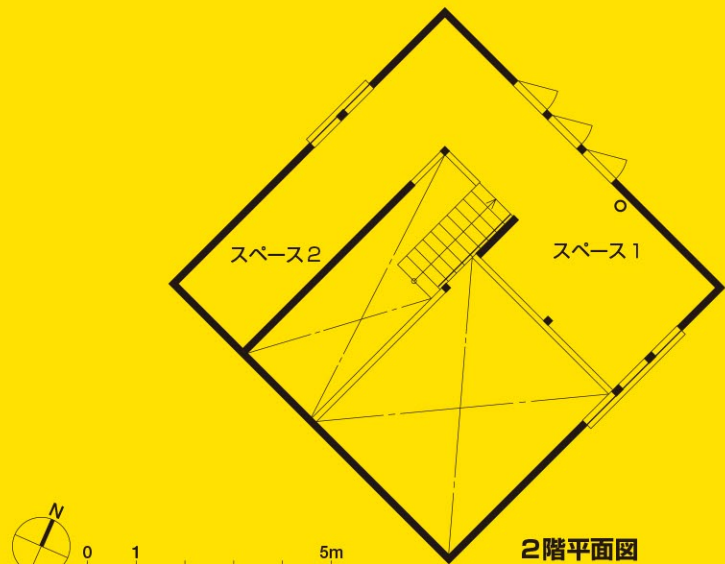
主な外部仕上げ

屋根 ステンレス鋼板横葺き
外壁 杉縦目板押さえ張り
建具 マーヴィン(インテグリティ)
デッキ床 米ヒバ目透かし張り

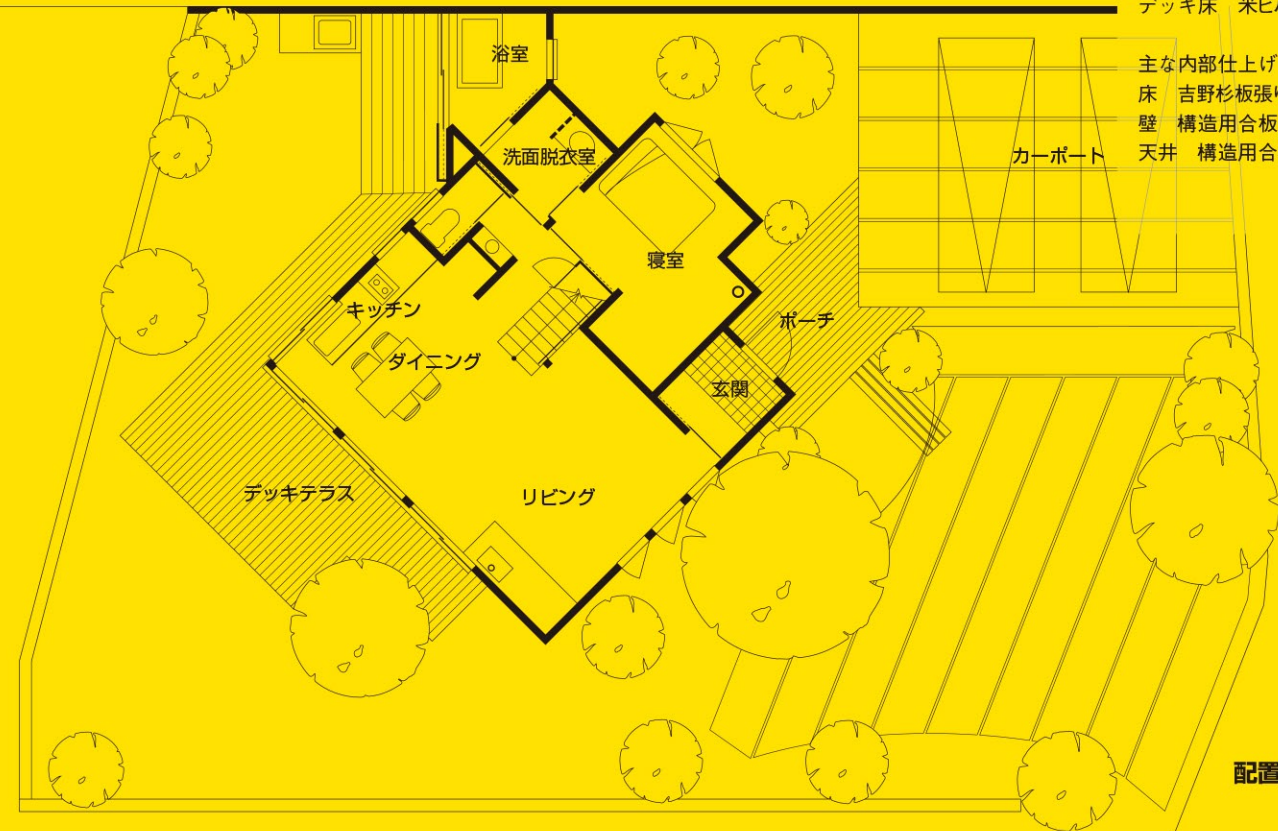
主な内部仕上げ

床 吉野杉板張り
壁 構造用合板あらわし仕上げ
天井 構造用合板あらわし仕上げ

カーポート



2階平面図



配置図・1階平面図



窯焼きピザに庭で摘んだバジルを添えておもてなし。男の料理はぶっくらぼうだが至極美味しい

柱や梁を隠さないシンプルなお内装

シンケンの家では、柱や梁をそのまま見せて、内壁には「モイス」(P124)もしくは「Jパネル」(P114)を、壁紙などで覆わずに素のまま使います。そうすると木を常に乾燥した状態に保ちやすく、メンテナンスもしやすくなります。

材料についても、あらわしとして使えるものを入念に選定しています。柱・梁に使う鹿児島県産の杉集成材も、内壁に使う「モイス」もしくは「Jパネル」

も、天然の素材が持つ素朴な美しさを持った材料です。そのような材料を社員スタッフであるフレーマーと大工が中心になって組み上げていきます。壁のジョイント部や壁と床との接触部などもそのまま見せるので、細心の注意を払って施工しています。このように柱や梁を包み隠さずに堂々と見せる内装は、長持ちする家をつくる覚悟の表れでもありと考えています。

今、多くの家は柱や梁を壁の中に隠

しています。その理由の一つは、乾燥が十分な木材を使っているからだと思えます。未乾燥の木材を使うと、建ってから割れやねじれが生じたり、材料がやせて隙間ができたりします。

シンケンは、機能的な美しさを持った「柱や梁を隠さないシンプルなお内装」を、これからも家づくりの根本にしていきます。



壁紙で包み隠さないシンプルな構造は、見える安心感がある

機能的で無駄のない、すっぴんの美しさ



大切な骨組を雨で濡らさないための養生は作業後の日課。晴れていても養生を行なう

元気の良い挨拶、生き生きとした現場



現場に携わる150名が集う月1回のオルスタズ勉強会。そうじが行き届いた作業しやすい現場を目指す



太陽熱を蓄熱するための基礎・床下は大切。建て方前に必ずフリーマーがきれいに磨き上げる



シンケンの現場は、「フリーマー」と呼ばれる社員スタッフが中心となって、協力業者の皆さんと共に作業を進めています。「フリーマー」は20代の若者が中心のため、最初はお施主様に「こんなに若くて大丈夫？」と思われてしまうこ

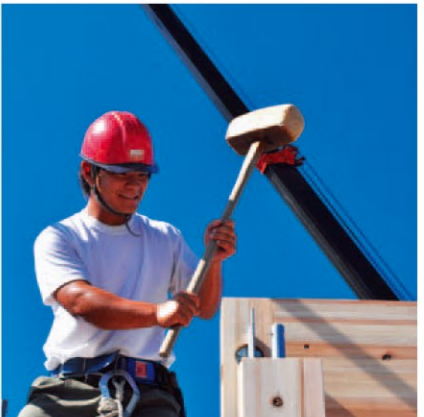
とも多いのですが、そのキビキビとした動きや情熱的に仕事に取り組み姿、元気な挨拶に触れるうちに、だんだんとファンになってしまいう方が多いとか。また、現場で働く社員スタッフと協力業者の集団をシンケンでは、皆が現

場という舞台で輝くスター、という意味を込めて「オルスタズ」と呼んでいます。「オルスタズ」の面々は月に一度、お客様への対応や現場をよりよくする方法についての勉強会の場を設けています。



自分の好きな事を生業にする、そして、自分の納得とお客様の満足を追求することで仕事は楽しいもの。
 これは1977年の創業以来変わらないシンケンで働く者の想いです。
 気の合う仲間と仕事が出来ると、感謝される仕事だから楽しい、自信と誇りを持って生きる。
 そんな価値観を共有しながらも慌てる事なく一歩一歩、歩みを進める……
 それがシンケンのスタイルです。

若者が輝く舞台





進化する
シンケン
スタイル

杉^{すぎ}BOX
HOUSE OF SUGI
SINKENSTYLE

杉の魅力は、その美しい木目と芳香、
そして柔らかな感触。
そんな杉材を内壁材として使用した
「杉(すぎ)BOX」は、
木の家のぬくもりを愛する
幅広い年齢層の方々に支持されています。



Jパネル 天然杉の集成パネル

「梶BOX」の壁や「モイスのいえ」の床材などで使用しているJパネルは、阪神淡路大震災の経験を生かし、“地震に強い家”をテーマに開発された建材です。

十分に乾燥させた3枚の杉板を繊維方向を変えてサンドイッチ状に重ね合わせて強度を増すことで、無垢の杉板が持つ芳香や質感を損なうことなく、優れた耐震・防火性能を発揮します。

原料はすべて国産の杉材を使用しているため、日本の森林の活性化にもつながっています。



久保さんち

竣工:2012年3月

福岡県糸島市

シンケンの存在は本で知ったという久保夫妻。
当初は家を建てるつもりは全く無かったのに、
いつかシンケンの家づくりへの
共感が深まっていき…。
子供の頃感じた、虫や木や星への
ワクワクした気持ちを思い出させてくれる
素敵な住まいが誕生しました。



住まいの掃除はもっばらほうきで。
はりみ（紙製）のちりとりと、シュロのほうきがお気に入り



正面の棚は、宇希子さんがBOXを組み合わせてレイアウト。使いやすさを意識するとバランスも良くなる

一冊の本から始まった シンケンスタイルへの共感

「せとせと平日はテレビを見る時間ではなくて。日曜はだらだらと見ることもあったけど、今はもうほとんど見ないですね」と言う奥様・宇希子さん。その後ろで、コーヒー担当のご主人・友明さんが豆を挽きながら「休みも朝から忙しいですね。庭いじりをしていると3時間くらいあっという間に過ぎてしまうし。ガレージも今はもっぱら庭仕事のための作業場です」と語る。

福岡県糸島市で夫婦2人暮らし。シンケンとの出会いは2008年、友明さんが勤める大学に送られてきた書籍「わたしの家」を手にしたことがきっかけだ。当時は家を建てる予定もなく、マンション暮らしでいいかなと思っていたが読み物として楽しく眺めていた。



奥は自転車を置けるゆったりとした玄関の板土間

2010年、気楽な気持ちでシンケ

ンの見学会に参加すると、あれよと言う間に2人のマイホームへの夢は大きく育ち始める。宇希子さん曰く「国内でも海外でも、どんな場所でも自分たちで工夫して暮らしてきました。」「不自由さをいかに楽しむか」「みたいな面白さもあって」。そんな夫婦の心を打ったのがシンケンが提案する「暮らしの方向性」や、「モノを大切に使う」というコンセプト。「宿舍でも襖を取り払って、オープンな間取りにしてみました。押入れに照明をぶら下げてカウターテーブル仕様にした。この家でも、開放的な空間とプライベートな空間がバランスよく配置してあって、私の書斎(2階リビング裏)を穴蔵みたいにしてもらえたのがすごく気に入っているんですよ」と、とっってもうれしそうだ。



みかん、梅、グミ、椿、など多彩な樹木に囲まれた住まい。モズやコグロもやってくる

暮らしに好奇心をプラスする 未完成の楽しい我が家

「楕BOXのJパネルが気に入りました。結晶に似ているんですよ」とは、地球惑星科学の研究者である友明さんならではの感想。「結晶は単結晶よりも、多結晶の方が強い場合がある。Jパネルも繊維方向を互い違いに3層にして強くしている。原理的に納得できたんです」と熱弁をふるう。

そして友明さんが教えてくれたもっかの関心ごとは、ポール・スミザーというイギリス人庭師の庭づくりを参考にしたガーデニング。「ハーブや野草などの多年草を使って庭づくりをするので、ナチュラルだけど丈夫な庭ができます。最初は大変だけど、年々手間がかからなくなっていく計画なんです」。一方、宇希子さんは「入居したころは葉っぱに虫がついただけでも大事件。でも少しずつ慣れてきて、どんどん愛着を感じるようになってきて。そのうち『あぁ、同定(生物の分類上の所属や種名を見極めること)したい』って。たつとつイモ虫図鑑まで買っちゃいました。やっぱり理系なんですわ」と笑う。

暮らしに驚きと発見のある毎日。友明さんは「シンケン」は、住まい手にとっての「イイ」をどこん追求している。だから僕も引き受けた家でこれからの暮らしについてひたすら考えて、ひたすら楽しみながら暮らしていきたいんです」と話してくれた。

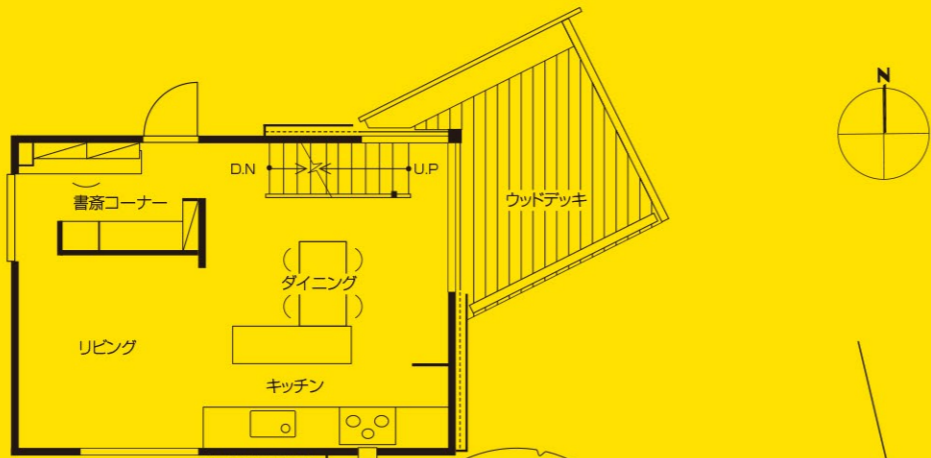
D A T A

建築概要 久保邸 / 檜BOX507g

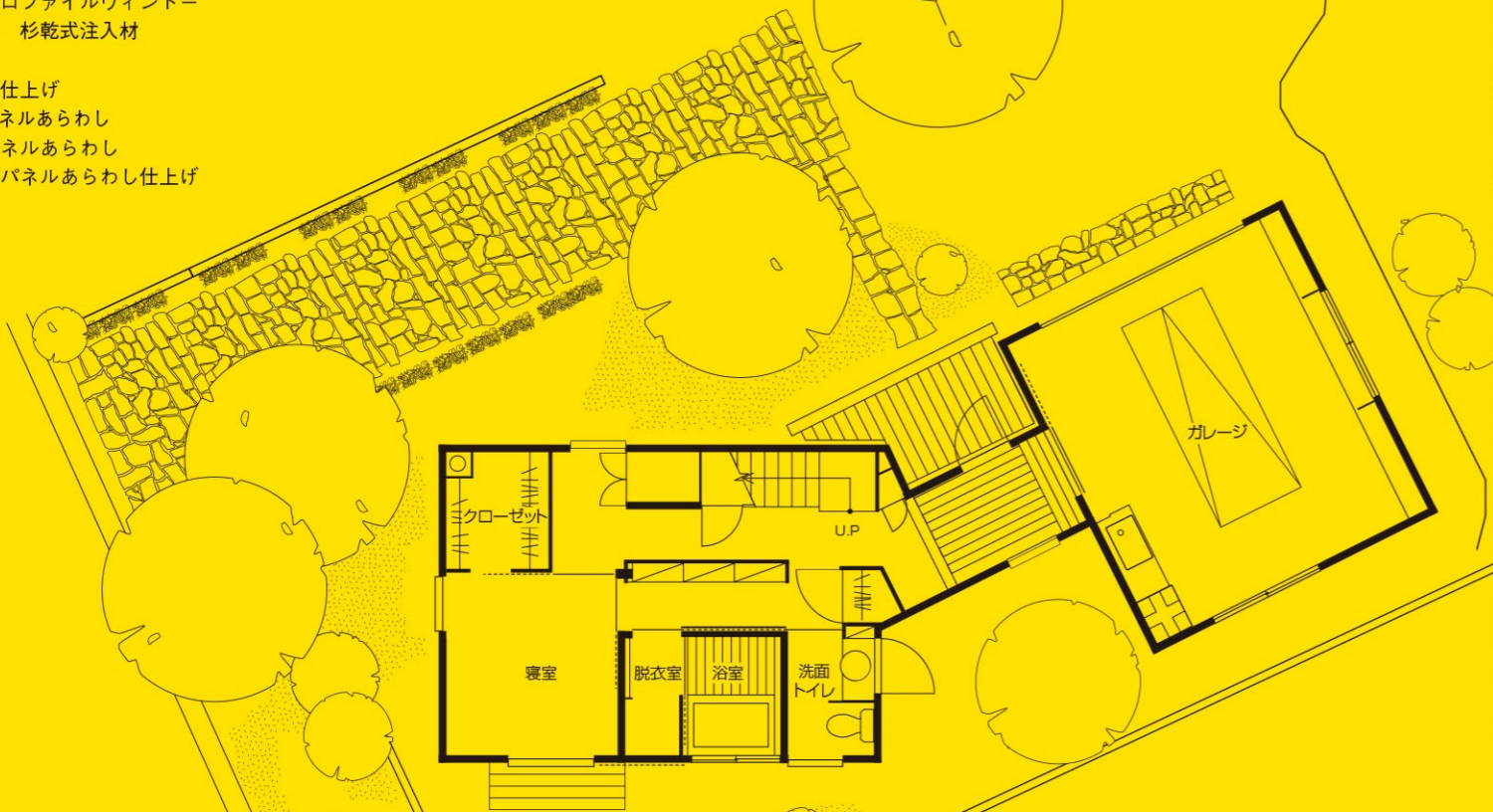
所在地 福岡県糸島市志摩
敷地面積 330.00㎡
建築面積 74.19㎡
延床面積 103.83㎡ (1階 68.83㎡、2階 35.00㎡)
用途地域 市街化調整区域
家族構成 夫妻
竣工 2012年3月

主な外部仕上げ
屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
外壁 STO+カルクウォール、杉板張り
建具 プロファイルウィンドー
デッキ床 杉乾式注入材

主な内部仕上げ
床 Jパネルあらわし
壁 Jパネルあらわし
天井 Jパネルあらわし仕上げ



2階平面図



1階平面図



コンパクトな暮らしに「好きなもの」と「大切なもの」をレイアウトした陽だまりのリビング

モイスのいえ

HOUSE OF MOISS

SINKENSTYLE

必要なものを満たしながら
過剰な装飾のないシンプルな家ほど
飽きることなく愛着を持って
住み続けることができる。
「モイスのいえ」は、
ライフスタイルの変化に合わせて
自分色に染め上げていける“未完成の家”です。





モイスのいえ House of MOISS

PLAY WALL

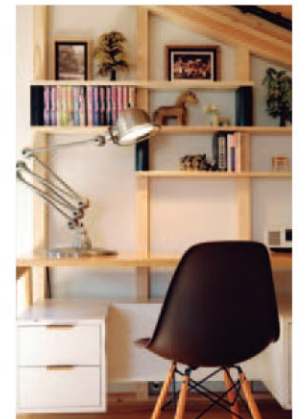
個性を生かす“遊べる壁”

暮らしの中で生まれるアイデアを自由に表現することで、暮らしをもっと豊かにする、そんな“遊べる壁”が「PLAY WALL」。趣味の品々を思い通りに飾る棚をつくるもよし、本棚とテーブルを組み合わせたワークスペースをつくるもよし。PLAY WALLは、住まい手の個性を表現するための最高のフィールドです。

実用新案登録済、特許申請中

モイス：天然素材と先端技術から生まれたボード

モイスは、天然のパーミキュライトを主原料としたセラミック状のボード。耐力壁、防火壁の役割を果たしながら、優れた調湿性能でシックハウスの原因となる化学物質を吸着・分解します。また腐らない、シロアリの蝕害を受けないという特性に加え、将来役割を終えて廃棄された後は土壌改良剤として生まれ変わる、人や環境にやさしい素材です。



太細さんち

竣工:2012年3月

鹿児島市

この家に住んで変わったことは、
自然が身近に感じられるようになったこと、
毎週のようにDIYを楽しんでいること、
という太細さん。

ご夫婦の理想だった「本当に気に入ったものを
大切に使い続ける暮らし方」が実現できる!と、
「モイスのいえ」には、大満足なご様子です。

真花(まなか)ちゃん、晴木(はるき)くんと4人暮らし。
家族の情愛を育む暮らしがこれから始まる





キッチンから見た税島。緑をわたる風を気持ちよく取り込み、この夏のエアコン使用は3回ほど

暮らしの可能性を広げる 小さくて大きな、自在の家

「自分たちに本当に合った家に住んで、家もモノも大事に長く使う。この家に住んでますますそう思うようになりました」と話すご主人の由信さん。太細さんの住まいは、東側に桜島を望む丘の上。6m×6mのコンパクトな住まいに家族4人がにぎやかに暮らし

ている。「最初は狭いかなと思っていただけ、実際に住んでみると意外と広い。これ

隣同士に並ぶ真花ちゃんの勉強机と昌子さんの書斎。整頓された見せる収納はさすが女の子



太細家の暮らしをカラフルに描き出す青、緑、赤、黄、白、黒、茶の7色の鮮やかなコントラスト



だけ大きな吹き抜けがあると3階が狭くなってしまふのではと思っただけ、かえって開放感があっというんですよ。」

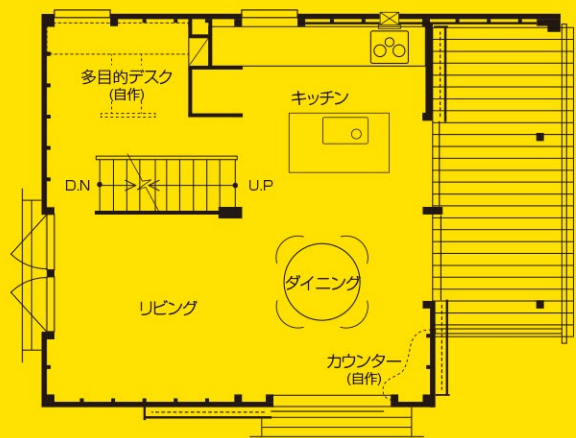
住まいづくりのスタートは2010年。平屋をベースにした家をイメージしていたが、「出てきたプランは3階建てだし！壁は真っ白だし!!伝えた要望とはかけ離れていてビックリ(笑)」。一方でD&Yを趣味にする由信さんにとって、小柱を自在に活用して棚やカウンターがつけられる「モイスのいえ」との出会いが、マイホームづくりを後押しする大きなカンフル剤となったよ

うだ。入居してからは半年の間に、洗濯物干し、収納棚、カウンターなど多くの「作品」を仕上げたそう。奥様の昌子さんは「ここに棚があったら、こんな収納があったらと思って、主人にお願いすると、すぐに実現しちゃいます」とご満悦。車の整備士という仕事柄が、妥協のない仕事ぶりで日曜大工に精を出す由信さん。「これからの楽しみは車庫づくり。車庫の天井が2階のデッキにつながって…。そんな構想を描いています」と、技術屋さんとしての自分をあますところなく発揮している。

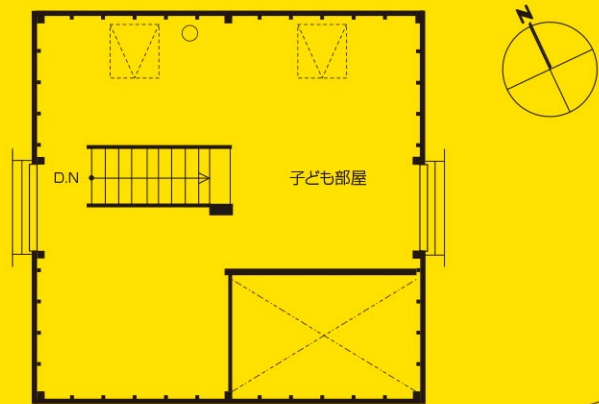
使い勝手と居心地の良さの ちよんごいい関係

和室の縁側でお茶を飲んで過ごすような木の家をイメージしていたという由信さんだが、「具体的にプランの詳細を詰めていくと、妻の意見ばかりが通って、まず最初に私の和室とガレージが消えました」と笑う。それでも、縁側の居場所だけは1階のクローゼット奥にしろうじて採用。Jパネルでクローゼットを仕切り、庭をのぞむ窓辺に男の居場所をきちんと確保した。広さにするかわずか1畳ほどだが、風に揺れる暖簾とちゃぶ台が、どこか文学的な風情を漂わせる、心落ち着く場所に仕上がった。

一方、昌子さんにとっては使い勝手のいい住まいこそが最大のこだわり。なにより桜島を望む一番いい場所にキッチンを設置したことで、得意な料理の腕のふるい甲斐があるというもの。「キッチンに立つと、左手に桜島。正面には錦江湾が見えます。あつ、今日は開間岳まで見えていますね!」。居心地と機能性のバランスを考慮して選択した「モイスのいえ」。「モイスは水を吸収するという話を聞いて、晴木がモイスにパッと水をかけたんです。そしてたらほんとにスーッと吸ってくれました」と、その効果は身をもって体験済み。梅雨のジメジメや洗濯物の部屋干しにも優れた吸湿効果を発揮するので、共働きの太細夫妻にとっては大きな味方となっているようだ。



2階平面図



3階平面図

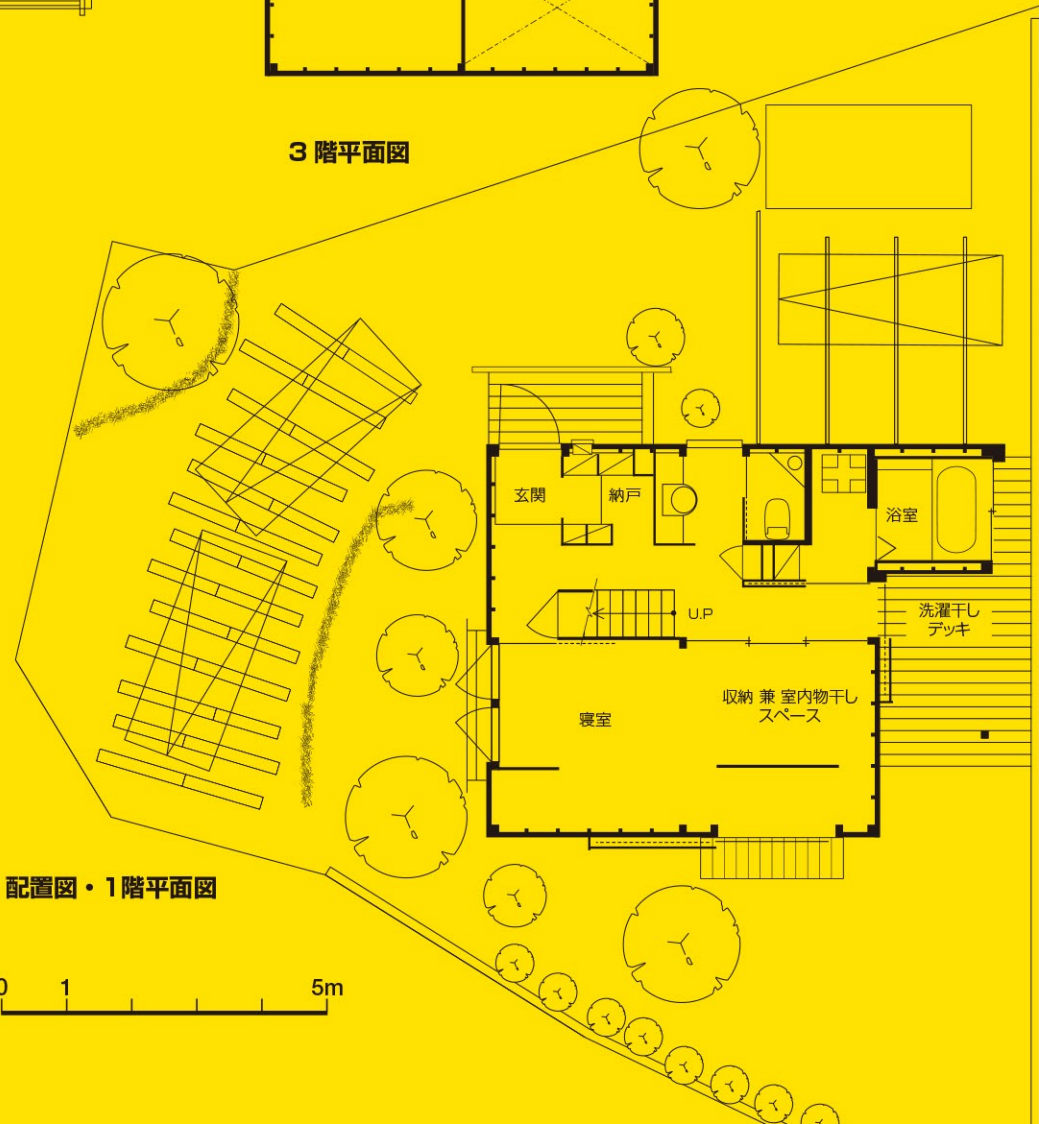
DATA

建築概要 太細邸 / モイスのいえ606g

所在地 鹿児島市吉野町
 敷地面積 213.55㎡
 建築面積 56.29㎡
 延床面積 105.86㎡
 (1階 39.31㎡、2階 36.00㎡、1階 30.55㎡)
 用途地域 第一種低層住居専用地域
 家族構成 夫妻、子ども2人
 竣工 2012年3月

主な外部仕上げ
 屋根 ガルバリウム鋼板横葺き
 外壁 STO+カルクウォール、杉板張り
 建具 プロファイルウィンドー
 デッキ床 杉乾式注入材

主な内部仕上げ
 床 Jパネルあらわし
 壁 モイス張り
 天井 Jパネルあらわし仕上げ



配置図・1階平面図

0 1 5m



縁側の前に可動式の豊を敷けば、即席の和の空間ができあがり

全国に広がる提案住宅「モイスのいえ」

「暮らしを楽しむ」を全国に

シンケン「家を建てる事は目的でない」と考えます。
なぜなら、家づくりを考えている人の本当の目的は、

人生を楽しく生きるために、
家族が仲良く和やかであるために、
居心地のいい場所が欲しいから

だと思っから。

家を建てるのは、手段であって目的ではない、欲しいのは家ではなく「心地いい暮らし」だと思っのです。

では「居心地のよい家」とは、どんな家なのでしょう？

- ・四季の移ろいが感じられる、“自然と共生する家”
- ・家族や友人との団らんが自然に生まれる設えや、家事を楽しくスムーズにする動線や間取り等々、住む人への配慮に満ちた“家族の情愛を育む家”
- ・必要なものを満たしながら過剰がなく、ライフスタイルの変化に合わせて少しずつ自分の色に染めていける余白を残した“未完成の家”

そんな家は、住む人が暮らしを楽しみ、豊かに生きるための手助けをしてくれる…。36年に渡り家づくりひと筋を貫く中で、私たちはそう確信するようになりました。

日本の住まいをもっと楽しくしたい。
日本の街並みをもっと素敵にしたい。
家づくりを通して、世の中をもっと元気にしたい。

私たちシンケンのそんな想いは、この価値観に共鳴する全国の住まい手とつくり手を結び、今、新たな取り組みとして発展しつつあります。



提案住宅

「モイスのいえ」プロジェクト

提案住宅「モイスのいえ」は今、シンケンの住まいづくりの考え方に賛同する全国各地の工務店の手によって静かな拡がりを見せています。

提案住宅「モイスのいえ」特徴

- シンケンスタイル 1,400 棟の実績をベースに、動線や距離感を考えつくした普遍的な居心地のよさを実現。
- 構造材を包み隠さない構造にすることで、家の状態がいつでも手に取るように分かる「資産価値を長く保つ家」。
- 「6m x 6mの3階建て」というコンパクトなサイズながら、大型の木製サッシを標準採用し、開放的でのびのびとした空間を実現。
- 年間を通した快適な温熱環境を実現するため、太陽熱を利用した床暖房システム「そよ風」を採用。
- 内壁には脱臭・調湿・防火壁・耐力壁の役割を果たす理想の建材「モイス」を使用。その上に 50cm間隔に配された「小柱」を利用することで、棚やテーブルの取り付けなど、住まい手の個性を活かした DIY が楽しめます。
- 様々な敷地の条件に対応する 12 パターンのプランをあらかじめ準備しています。

「モイスのいえ」モデルハウス / 愛知県名古屋市 コスモホーム株式会社



フォルクス S-Pro モデルハウス / 静岡県浜松市 OMソーラー株式会社



T 邸 / 鳥取県鳥取市 株式会社建販



I 邸 / 静岡県沼津市 空間工房 LOHAS(ロハス)



M 邸 / 静岡県静岡市 空間工房 LOHAS(ロハス)



Y 邸 / 大阪府池田市 株式会社コアー建築工房



● オレンジの丸印は、提案住宅「モイスのいえ」が建っている場所を示しています。

お問い合わせ

提案住宅「モイスのいえ」プロジェクトの詳細および、提案住宅「モイスのいえ」の建築のご相談は、

下記までお問い合わせ下さい。

株式会社シンケン
TEL : 099-286-0088



SINKENSTYLE WebSTORE

シンケンスタイル Webストア

暮らしの理想を形にする

SINKENSTYLE WebStore は、1977年の創業以来、お客様の暮らしを見つめ続けてきたシンケンが、お客様の暮らしを楽しく快適なものにするために役立つと考える機能的な品々を、独自の視点からセレクトしたオンラインストアです。

シンケンオリジナル家具の他、暮らしに役立つ選りすぐりの品々を紹介しています。

ぜひ一度ご覧いただき、シンケンの提案する「ワクワクする暮らし」を感じてみてください。

SINKEN STYLE WEB STORE オープン!!

毎日、ワクワク。

SINKENSTYLE WebStoreは、1977年の創業以来、「家づくり」を通してお客様の暮らしを見つめ続けてきたシンケンが、「お客様の暮らしを楽しく快適に」という視点からセレクトした機能的な品々を紹介するオンラインストアです。

シンケンオリジナル家具の他、塗料や雑貨など、選りすぐりの品々を順次紹介していく予定。シンケンの提案する「ワクワクする暮らし」を感じてみてください!

SINKENSTYLE WebStore 楽天市場店
WEBストアにアクセス!!
www.rakuten.co.jp/sinkenstore

SINKENSTYLE Web Store
www.rakuten.co.jp/sinkenstore



SINKENSTYLE WOODWORKS

シンケンスタイル ウッドワークス

日本人の暮らしに本当に合った家具を

家具ショップを巡って、自宅にしっかりと馴染む家具を探すという労力は大変なものです。それでも満足いくものがなく、最終的には妥協で購入してしまうというケースを、これまでの家づくりの経験で数多く目の当たりにしてきました。

SINKENSTYLE WOODWORKS は、既存のデザインや寸法にとらわれることなく、現代の日本人の暮らしに合った本当の使いやすさを追求し、お客様に長く愛される家具づくりを目指しています。

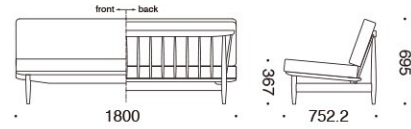
ダイニングテーブルやチェアを中心に、ライフスタイルや空間に合わせてお選びいただけるよう、サイズや色のバリエーションも豊富にそろえております。

家具は、鹿児島・福岡のシンケンモデルハウスでご体感いただけます。

SINKENSTYLE WebStore では、より詳しい情報をご案内しております。

家具のご相談は

SINKENSTYLE WOODWORKS
TEL:099-286-0088



3seat ・ホワイトアッシュ 張り地：5種類*多色
 ・ウォルナット



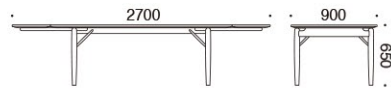
2seat ・ホワイトアッシュ 張り地：5種類*多色
 ・ウォルナット

スポークバック ソファ



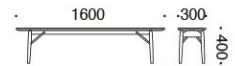
角テーブル 1900

・ホワイトアッシュ



角テーブル 2700

・ホワイトアッシュ



ロングベンチ

・ホワイトアッシュ



スタンダードチェア

・ホワイトアッシュ

キャリールズール

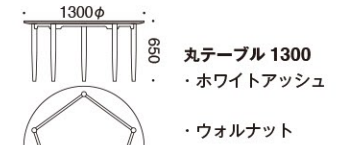
・ホワイトアッシュ



丸テーブル 1200

・ホワイトアッシュ

・ウォルナット



丸テーブル 1300

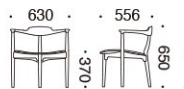
・ホワイトアッシュ

・ウォルナット



丸テーブル 1400

・ホワイトアッシュ

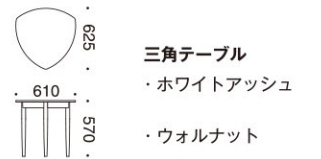


コーナーチェア

・ホワイトアッシュ

・ホワイトアッシュ+レザー

・ウォルナット+レザー



三角テーブル

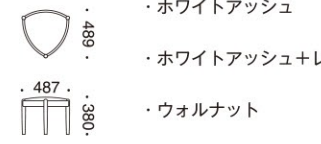
・ホワイトアッシュ

・ウォルナット

三角スツール

・ホワイトアッシュ

・ホワイトアッシュ+レザー



・ウォルナット

・ウォルナット+レザー

・レザー：8色

シンケンスタイルは コミュニケーション

シンケンの住まいづくりに興味をお持ちになったら、
モデルハウスや建物見学会にお越しください。
シンケンの住まいづくりについて納得のゆくまでお話しします。
シンケンの住まいでどんな暮らし方をしているのか、
ご覧になりたい方は暮らしの見学会にご参加ください。
そして、たくさんの住まい手の声に耳を傾けてください。
シンケンの住まいづくりはコミュニケーションから始まります。



シンケンの住まいを
建てる前に



ジャンル 借BOX クリック: 500 つながり: 0 コメント: 0

ハウスの空間

完成見学会

2012/4/29登録

今日はドキドキの完成見学会でした。誰にもなかったらどうしようと思っていたけど、70組近くの方がこんな田舎まで足を運んで下さりとでも嬉しいかったです。お友達もできたので見学会が楽しく良かったです。スタッフの皆様、きていただいた皆様本当にありがとうございます。いい経験になりました！




ジャンル 借BOX クリック: 609 つながり: 0 コメント: 10

ハウスの空間

上棟式。

2010/5/17登録

5月15日(土)11:00に上棟式を行いました。「モ子まき」の際にも、たくさんの方々にお越しいたさき、ありがとうございました。その後の食事会でも、上門チームをはじめスタッフの方々の結東の固さを感じ、改めてシンケンに家づくりお願、して良かった思いました。親戚一同も大変感じしていました。完成まで数ヶ月ですが、よろしくお願、いいたします。



2012.11.4 [日]

『土間洗い』

「やあぁ！」とっっ！」
威勢のいいかけ声とともに参上したのは、本日限りのデッキブラシ隊(一)!!
その名も、「TEAM KAJIYA+α」

本日(11/3)の任務
『土間洗い』

初の任務とあって気合い充分なわたしたち一家、ハイテンションなのは言うまでもない。

少し緊張気味にデッキブラシを手渡されたが最後指導も半ば、我慢できずにこすり始める。ゴシゴシ、ゴシゴシ、ゴシゴシゴシゴシ〜！
「わお♪楽スィ〜！！」

やりたい放題こすつたわりに、綺麗な仕上がリ(笑)

講義に乗って「次の現場、どこ！？」
「…いやいやいや。」!!

結局一番汗を流したのは、フレーマーのお二人でした。加治屋さん、中村さん、お疲れ様でした。



ジャンル LLB クリック: 494 つながり: 0 コメント: 2

福福の空間

内覧会のお礼。&引渡し完了。(福岡)

2011/12/11登録

おかげ様で先日の内覧会は沢山の方にお越し頂いたようです。来て下さったみなさん、ありがとうございました。少しはお役に立てたでしょうか？

昨日、引渡しが終了しました。ついに来ました待ちに待ったこの日！でも、とっても嬉しい反面、とーっても寂しい。帰り道、しんみりと『もう、吉岡さんとの打合せも無いんかー。うちーにも会えんし。よっこーにも毎日電話できん。。パタヤんにはもう一度あえるかどうか。。』と、プツプツ言っていたら、主人から『でもね、次のシンケンファンが待とうとよ。ぼくらがそうやったように。』と、言われました。そうだよな。。ワクワク、ハラハラ、ドキドキの1年半。こんなに楽しい家づくり、一人でも多くの人に体験してもらいたい。私達はここから、ステップアップして、先輩方のような、暮らしを楽しむユーザーになる事こそ、真の目的。そうだ、忘れてた！！大事な事を思い出し、最後の家路につくと、明日引っ越しなのに、手つかずの我が家。福福家は全員、追い込まれてこそ、実力を発揮するタイプ。とはいえ、これで引越しまいに合うの？？




シンケンスタイル
コミュニティ
ネット上から広がる交流の場



シンケンの住まいでの暮らしの楽しみ方や、暮らしのアイデア、見学会での体験記、趣味のはなしなど、「シンケンの家を建てた人」「シンケンの家に興味のある人」が、インターネット上で情報交換を行えるコミュニティサイトです。

最初に簡単な登録を済ませるだけで、気軽に自分が興味ある情報を発信したり、検索したり、コメントをつけられるため、インターネット上で交流の輪が広がっています。

sinkenstyle.kanshin.jp



ホームページ
住まいと暮らしの豊富な事例集



モデルハウスや見学会に足を運ぶ前に、自宅に居ながらシンケンの家づくりをたっぷりと見学できるシンケンホームページ。

見所は、1000枚を超える写真で確認できる豊富な事例。完成写真はもちろん、5年・10年と時を経た暮らしのようすを写真とコラムで紹介しています。

最新のイベント情報の確認や、予約制の暮らしの見学会や勉強会の申し込みも可能です。

さらに住まい手、つくり手、家づくりに興味のある方が気軽に交流できる、コミュニティサイトを準備しております。

www.sinkenstyle.co.jp



深い軒下にある南側の縁、戸外の心地いい場所



大きな吹き抜けでリビングと繋がる2階スペース



長いアプローチと緑を設えた豊かな外観

与次郎ヶ浜 モデルハウス

年月を経て味わいを深める木の家



与次郎ヶ浜 KTS 住宅フェア内の 3 代目のモデルハウスとして 2001 年に誕生した「与次郎ヶ浜モデルハウス」。

年月を経て床や壁は飴色になり、庭の緑は一層潤いを増し、木材をふんだんに使った住まいならではの味わいや、庭の自然を取り込んだ暮らしの魅力をご体感いただけます。

時を経るごとに美しさを増す住まいの魅力を、ぜひ一度、お越しになってお確かめください。

ご案内

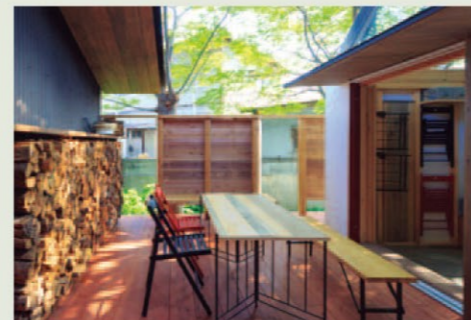
鹿児島市与次郎 2 丁目
KTS 住宅フェア内
TEL : 099-253-6888
営業時間 : 10:00 ~ 17:00
休業日 : 大晦日・元旦



暮らしのイメージを体感できる、のびのびとした空間



オリジナル家具に腰かけて、住まいの事例集を存分にご覧いただけるスペース



ケヤキの木漏れ日が心地いい、アウトドアスペース



博多の森 モデルハウス

シンケン福岡の情報発信基地



2011年春の福岡の拠点開設から2年を経た2013年夏、「博多の森モデルハウス」をオープンいたしました。

既存の建物にシンケンスタッフが手を入れることで生まれた空間は、トップライトからケヤキの木洩れ日が燦爛と降り注ぎ、鳥のさえずり、川のせせらぎが五感をくすぐる、シンケンの住まいならではの四季折々の居心地の良さが味わえる場所。

家づくりはまだまだこれからという方でも、暮らしを豊かにするためのヒントを発見するための場として、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

ご案内

福岡県粕屋郡志免町別府東 1-1-5

TEL: 092-957-7755

営業時間: 10:00 ~ 18:00

休業日: 水曜日、年末・年始



カフェスペースに隣接する「モイスのいえ」モデルハウス



モデルハウスに寄り添うように建てられた通称「おとこの離れ」。趣味を楽しむ隠れ家的スペース



天文館の中心に位置するマルヤガーデンズ



天文館 モデルハウス

デパートで体感できる豊かな暮らし



2010年春、マルヤガーデンズの7階に誕生した「天文館モデルハウス」。

フロアに提案住宅「モイスのいえ」の1階部分と庭を大胆に再現した、デパートの中のモデルハウスです。

シンケンの住まいの魅力はもちろん、オリジナル家具や厳選のデンマーク家具、ここでしか手に入らない薪ストーブ…等々を実際に見て触ってご体感いただけます。

併設のカフェで、建物や家具を見た後はゆったりとお茶の時間を過ごせます。豊かな暮らしをイメージしながら、くつろぎのひと時をお過ごしください。

ご案内

鹿児島市呉服町 6-5
マルヤガーデンズ 7F

TEL: 099-248-7720

営業時間: 平日 10:00 ~ 18:30
休日 10:00 ~ 19:00

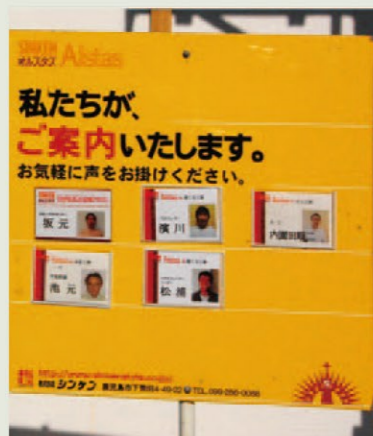
休業日: 年 5 回程度



シンケンの家づくりのポイントをご案内。現場スタッフが対応します



ヘルメットやスリッパを準備しています



作業スタッフの名前を貼りだしています



一体打ちの基礎工事も見ることができます



チームで作業、働く姿もご覧ください

現場のご案内

お気軽にご見学ください



シンケンの現場は、「フレーマー」と呼ばれる社員スタッフが中心となって作業を行っており、元気のよい挨拶やキビキビとした作業ぶりが、現場を目にする人に好印象を与えていることが多いようです。「フレーマー」を含め、現場では「オルスタズ[®]」と呼ばれるスタッフ達が作業にあたっていますので、現場を見かけたら、お気軽に声をお掛けいただき、中までご見学ください。心を込めて対応させていただきます。

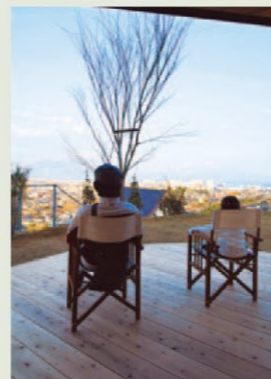
※ シンケンでは、協力業者の皆さんまでを含めた現場スタッフを「皆が現場という舞台のスター」という意味を込め「オルスタズ」と呼んでいます。(P106 参照)

お申込不要

お施主さまのご都合で見学が出来ない現場もございますのでご了承ください。



通常、10時から17時まで開催。お好きな時間にお越しください



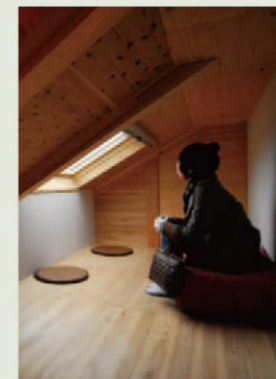
土地の持ち味を体感



お子様連れでも安心。キッズカーを完備



設計のコンセプトを想像しながらご覧ください



穴蔵のような居場所発見!

完成見学会

引渡し前の住まいを見学



お客様に引き渡す前のお住まいを見ていただく完成見学会を毎月、各地で開催しています。

ご家族のライフスタイルや敷地の状況に合わせて、機能性と居心地のよさを追求して建てられた住まいは、一つとして同じものではありません。自分たちのスタイルにあった住まいや暮らし方をイメージする場として、毎回多くの方が繰り返し来場されています。

等身大の住まいを自分の目で確認し、シンケンの住まいの心地よさを確認しながら、ご家族で暮らす時のシミュレーションをする場としてご活用ください。

お申込不要

- 日程・場所の確認は
<http://www.sinkenstyle.co.jp>
 鹿児島：099-286-0088
 福岡：092-957-7755



どんな場所でどんな暮らしをしたか、住まいづくりは理想の将来をイメージすることが大切



コーヒータイムを挟んで、3時間半の講座「お金の話」。家計から家づくりの資金まで、大切なお金について考える機会



託児室を完備しています

住まい教室

プロの視点から疑問を解消



住まいを建てるにあたり、まず何から始めたらよいか？ 住まいづくりに必要な「お金の話」や「居心地のいい住まいづくり」のポイントなどを、プロの視点から、図解や写真を交えてわかりやすくご説明いたします。具体的な計画はこれからという方でも、自分達の住みたい家を具体化するための情報収集の場としてご活用ください。

住まい教室3つのテーマ

居心地のいい住まいづくり

お金の話（資金計画について）

土地の話（土地を手に入れるまで）

要申込

- 日程・場所の確認は
<http://www.sinkenstyle.co.jp>
 鹿児島：099-286-0088
 福岡：092-957-7755



バスに乗り合わせて行く「バス訪問型」と、訪問先近くに集合する「現地集合型」があります



暮らしぶりや住み心地など、生の声を伺うことができる絶好の機会



オリジナルキッチンの使い勝手も伺えます



自然環境と居心地の関係も見どころ

暮らしの見学会

入居後の暮らしの姿を学ぶ



ご入居後のシンケンのお住まいに訪ねて、暮らしぶりを見学しながら、住まい手の話を直接聞くことが出来る、暮らしの見学会を開催しています。

ソーラーシステムの働きや、住みこなし術、現実に即したアイデアやアドバイスが豊富に語られ、家づくりの過程で「とても役に立った」という声を多くいただいています。

入居後の暮らしの具体的なイメージをふくらませる機会としてご活用ください。

要申込

- 日程・場所の確認は
<http://www.sinkenstyle.co.jp>
 鹿児島：099-286-0088
 福岡：092-957-7755



価値観のあう人たちのコミュニティは人生を豊かにしてくれる



シンケンの家が3棟並ぶ。お母さんの「帰っておいで」の声が聞こえるまで、みんなで遊ぼう



7棟のシンケンの家が建ち並ぶ。



区画内のスペースでアウトドアライフを楽しめる

緑豊かな街 サンサントウン

土地から暮らしをプロデュース



サンサントウンは、いくつかの区画をまとめてシンケンが土地からプロデュースした、シンケンの家がまとまって建つ区域です。

それぞれの家の暮らし方や窓から見える景色を勘案して、プランニングや植栽計画を行っているため、小さな敷地でものびのびとした暮らしが出来ます。また同じような価値観を近隣で共有できるという安心感も、サンサントウンの特徴です。

調和のとれた家が集まることで、街並みに彩りを添えています。

ご相談

今後も、ご要望の多い地区から開発を進めていきたいと考えています。もし土地の売却を考えておられる地主さんがいらっしゃいましたら、ご一報ください。

シンケン不動産：099-286-0055



傾斜をいかして建てた住まい。池の眺望を楽しむため、デッキを宙に浮かせるように張り出した



購入時の敷地。住宅街の一角。草木が生い茂っていた



上写真の池側からのようす。土地選びは、気持ちのいい場所探し

シンケンスタイル 不動産

土地探しのお手伝い



シンケンの住まいづくりは、敷地の持つ条件を細かく検討し、欠点を解消しながら長所を引き出すことを大切にしています。ですから、その土地の良し悪しは「住まいが建った状態で、その住み心地で」決定されるべきだと考えます。

シンケン不動産は、住まいづくりのプロとしての観点からの土地のご紹介や、土地・建物の総予算を考えたご提案など、その土地の価値を十分に理解していただくためのお手伝いをいたします。

○シンケンで家づくりをご検討中の方はもちろん、他社での家づくりをお考えの方もお気軽にお声かけください。

ご相談

土地・建物の売却・賃貸のご相談

「土地の査定をして欲しい」「家を空けることになったので、賃貸物件にしたい」など、お気軽にご相談ください。

シンケン不動産：099-286-0055

思い立ったときに、出来ること

まずは土地探し

住みたい場所と大体の予算をシンケンスタッフにお伝えいただければ、土地探しをお手伝いします。実際の土地に足を運び、土地が持つ長所や短所をプロの目で確認のうえご紹介しします。気になっている土地がある場合などお気軽にご相談ください。

土地はあるけど

調べてみたら家を建てられない土地だった！手続きに予想外の時間がかかってしまった！など、土地があってもその過程では思いがけないこともあります。建築はまだ先でも、お持ちの土地の状況を把握することは大切なことです。安心して家づくりを検討できるように、事前の調査を承っています。

お金のことが心配…

イメージする家づくりにどれだけの予算が必要か？ 建築にかかる費用と経費から、ご家族のライフプランにそった資金計画を個別にお手伝いしています。目標が定まると計画も立てやすいものです。お気軽にご相談ください。

家族で話し合い

例えば土地探しからはじめる場合は準備からご入居までに、少なくとも1年ぐらいの余裕をもってとりかかりたいものです。学校や仕事の都合で建設地や入居時期が決まることが多いので、目標を持って準備にとりかかることをおすすめしています。またご両親への相談を早めに行い理解や協力を得ておくことで、気持ちよく家づくりに取り掛かることができます。

イベントと都合があわない、平日に見学希望

仕事の都合などで土・日曜日のイベントに参加出来ないという方には、平日の都合の良い日にも個別のご案内を行っています。お引渡し前の建物や入居から何年も経つお住まいのご案内、資金の相談なども承っています。常時7～8件のご案内できる建物がございますので、お気軽にご相談ください。

家づくりを思い立ったら



事例1 鹿児島市・Aさん

幼稚園生のお子さんの進学にあわせて家づくりを検討、土地探しからスタート。通学・通勤を考慮しつつ、のびのびと暮せる場所を求めて県内一円多くの土地を紹介・検討。選んだのは団地の一角だが、家の中からは近隣の気配を感じない気持ちのいい場所



事例2 鹿児島県始良郡・Bさん

実家から程近く、眺望のいい売地があり購入。農地だったため、農地転用(農地を宅地に用途変更)の手続きが必要となり、宅地を購入する場合に比べて半年ほど余計に時間もかかった。農地転用にかかる期間は、地域や土地の状況によって変わる

住まいづくりの相談

知っておきたい家づくりの流れ



ほとんどの方にとって、家づくりは初めての経験。いざ建てようと思っても、家づくりにかかる時間や手順は、土地の有無や状況などで変わってきます。

十分に納得のできる住まいをつくるために、事前に家づくりの流れを把握し、気持ちと時間に余裕を持って進めていくことは大切なことです。

建築はまだまだ先でも、いざという時に慌てることのないように、今から準備できることをまとめました。ご自身の状況と照らし合わせてご確認ください。

シンケンの家づくりをもっと詳しく知りたい・相談したいという方はお気軽に下記の電話番号からお問い合わせください。

資料請求・ご相談

シンケンの家づくりを詳しく案内した資料「住まいづくりのガイドブック」を準備しております。ホームページ・巻末のハガキ・お電話からご請求下さい。

鹿児島：099-286-0088
福岡：092-957-7755



プラン打ち合わせ *1

理想の暮らし像を伺いながら、一緒に形にしていく。
新しい暮らしのために、じっくりと納得いくまで打ち合わせ



3Dムービーで我が家を確認 *2

プランが決まったら、3Dウォークスルーのムービーを設計室で制作。
DVDだから、自宅のテレビで何度でも確認できる



上棟式 *3

餅まきの後の宴のようす。
家づくりの過程を楽しむイベントのひとつ



社内検査(竣工検査) *4

現場に携わったスタッフが集まり、引渡し前の検査を行う。
改善点の意見交換を行うなど、技術向上を兼ねた勉強の場でもある

候補地選定

・敷地選びは、居心地のいい住まいをつくるための大事な要素

土地測量

・敷地や道路だけでなく、隣地の建物や窓の位置、日の出、日の入りもチェック

*1 プラン打ち合わせ

・生活のようすや理想の暮らしをヒアリングしながら、スケッチでプラン提案

*2 建築総費用算出・ムービー作成

・パソコン上で建物の外観・内観の3Dを作成。あわせて総建築費の概算提出。
入居までのスケジュールや準備事項を確認

土地契約

(どんな家が建つかをシミュレーションのうえ、土地の契約を行えるので安心)

家具打ち合わせ

・キッチンの高さや造作家具の大きさなどを、使い勝手を考慮して決める

詳細図面・見積書作成

・平面・立面・家具の詳細図面とあわせて、設備や造園工事までを含んだ詳細見積りを提示

工事契約

・図面・見積り・仕様・工事内容を確認。いよいよ着工に向けて始動

建築確認申請・設計審査

・建築基準法に基づき、当該行政機関に申請

地鎮祭・着工

・着工に先立ち、工事の無事を祈る地鎮祭。専属の現場管理者が現場を指揮

*3 上棟式

・骨組みが組みあがり建物の形が出来る節目。無事に完成することを祈願する

外構・造園の打ち合わせ

・図面だけではわかりにくい、設備や植栽などの位置や箇所を実際の現場で確認

完成

*4 社内検査

・現場・設計スタッフが約30名で完成検査を行う。より良い住まいづくりへの研修も兼ねる

引渡し

・工事完了の施主検査を行っていただく。そして鍵と共にお引渡し

入居

・新しい暮らしのスタート。入居後アンケートで、工事のようすや暮らしの気になることをヒアリング

セントリコン契約・工事

・薬をまかないシロアリ防除法「セントリコン・システム」で、シロアリから住まいを守る

ハウスクエア定期訪問

・専属のスタッフがシロアリの有無を定期的に確認。あわせて住まいの気になることも伺う

増築事例 1

BEFORE



キッチン奥に増築し、二世帯住宅とした事例

AFTER



キッチン脇の共有スペースと寝室を新設

リフォーム事例 1 一般住宅をリフォーム



不要な壁や段差を取り払ったことで、のびのびとしたダイニングに変身

リフォーム事例 2 一般住宅の水廻りをリフォーム



明るくて風通しが良く、使って気持ちのいい場所に変身

建てた後は



うれしい生活
うれしいサポート

(株)シンケン
ユーザーズサポート



お客様の日々の暮らしを豊かにするために、居心地のいい空間を創造し、住まい手と共に育て活かす事に喜びを持って取り組む、それがシンケンユーザーズサポートです。

住まい手の感じる不具合を解消することはつくり手の想いであり、責任であり、喜びでもあります。

暮らしをより良くするためのメンテナンス技術を持った専門のスタッフ集団が、お住まいの不具合の修繕や、未永く愛着を持って暮らしていただくためのアドバイス、暮らしの変化に合わせた増改築の提案などを行っております。



薬をまかない シロアリ防除で 住まいの安全と 環境を守る

シンケンハウスケアは、住環境を末永く見守る「住まいのドクター」です。シロアリの被害をはじめ、様々な障害から住まいを守り、安全で快適な暮らしをお手伝いします。



HOUSE CARE

ご相談

シンケンハウスケア株式会社

鹿児島市下荒田 4-49-23
フリーダイヤル：0120-025-803
「ハウスケア」で検索

シロアリ防除の新管理システム
セントリコン™・システム

TM：ザ・ダウ・ケミカル・カンパニーまたはその関連会社商標



建物の周囲にシロアリの好む木材の入ったエサ場「ステーション」を設置します。



専門の技術者が定期的に訪問し、調査・点検を行います。



シロアリがエサ木にヒット(発生)!!



シロアリを発見してはじめて薬剤(脱皮阻害剤)を投与し、食べさせます。

日本には北海道の一部を除く全土にシロアリが生息しています。特に被害が深刻になりやすいイエシロアリは、九州・四国の沿岸地域と関東までの太平洋沿岸に分布し、建物に使用される木材だけでなく、畳や家具、書籍やアルバムなどまでも食べる旺盛な食欲をもっています。したがって昔から、住まいには当然のように防蟻処理が行われており、その多くは大量の薬剤を床下に撒く方法です。

シンケンには、建材や建物内に出来る限り薬剤を使わない方法を模索。そこで出会ったのが、余計な薬剤を使わずに建物の外でシロアリをブロックする防蟻方法「セントリコン™・システム」でした。

「セントリコン™・システム」は、従来の薬剤散布とはまったく異なった方法です。具体的には、エサとなる木材の入った筒(ステーション)を建物の周囲の地中に約3m間隔で埋め込み、定期的にそのエサ木をチェックします。シロアリがいてもいなくても、通常年8〜10回程度点検に伺い、シロアリの活動の有無を確認。シロアリを発見して初めて薬剤を使うこととなります。

その時に使うバブルロンという薬剤は、シロアリが好んで食べるようにした脱皮阻害剤です。それを巣に持ち帰ったシロアリは、他のシロアリにも分け与えるため、巣全体のシロアリが薬剤を食べることになります。薬剤を体内に吸収したシロアリは、成長に必要な脱皮ができなくなった結果、シロアリの巣全体を全滅状態に追い込むこととなります。

このセントリコン™・システムは、米国で開発され、世界14か国で採用されています。そして環境に優しいシロアリ防除法として、米国政府から環境保護賞が贈られました。

シンケンでは、このシステムを採用することで、専門の技術者が住まいを定期的に訪問し、シロアリの活動の有無をチェック。あわせて、建てた後の住まいのアフターケアを行い、住まい手が快適に、そして安心して暮らせるようにお手伝いしていきます。



ハウスケアのスタッフは、お客さまとのコミュニケーションをとりながら、ステーションの点検をします。さらに建物のメンテナンスなど、住まいのアフターケアについての相談も、たまわっています。



幼稚園で行われた設置工事



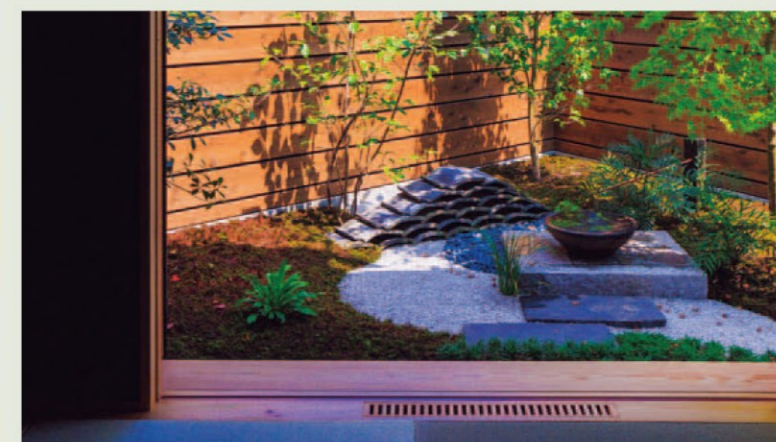
シロアリ防除の資格をもったスタッフが点検・管理

SINKEN STYLE

GALLERY

シンケンスタイルギャラリー





モイスのいえ
HOUSE OF MOISS
1206g

コーディネーター
桜島を望む家
鹿児島市

「いつも桜島を窓から眺めながら過ごしたい」
そんな思いで探し当てた、ご主人の
ご実家の近くの眺めの良い土地に建つ。
コーディネーターからの提案により、
キッチン・リビングダイニングは
柱の見えない大壁にすることで
インテリアの美しさを際立たせるスペースに。
スキップフロアで構成されており、
フロアごとに様々な表情と居心地を楽しめる。

スキップフロア……階段を介して半階分高さをずらした床を設ける建築方式。上下の階を見渡せるようになっており、開放的で変化のある室内空間が得られる。



「コーディネーター」について

シンケンでは希望されるお客様に対して、コーディネーターのご提案をさせていただいています。ご家族のライフスタイル、好きな素材感やデザインのテイスト等をお伺いしたうえで、置き家具や照明、家の仕様などを美観と使い勝手の両面から検討していきます。「家のプランニング」が済んだ後に行う「暮らしのプランニング」と考えていただければわかりやすいかもしれません。



夏場は気持ちのいい風が渡り、冬場は太陽熱の床暖房が心地よい

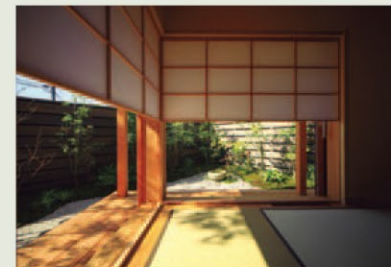


LLB
LONG LIFE BOX
508g

Mokokku House

福岡県飯塚市

ガレージへとつながる玄関土間は、足元を照らす照明が真砂土(まさど)の床面に美しい陰影を映し出す。1階にはおばあちゃんのための和室を備えた、3世代がちょうどよい距離感で居心地よく暮らすための工夫を詰め込んだお住まい。



コンパクトな家ながら、2階のリビングは遠くの山並みまで見渡せて開放感がある



梣BOX
HOUSE OF SUGI
607g

川のほとりの家
鹿児島県薩摩川内市

東～南～西に美しい山並みが続き、
目の前には川が流れるという
申し分のないロケーションに建つ。
リビングの大きな窓からは、刻一刻と
移り変わる自然の様々な表情が楽しめる。
あたり前のようにそこにある環境を
家の中に取り込むことで得られる
豊かさが感じられるお住まい。





モイスのいえ
HOUSE OF MOISS

806

コーディネート

森の中の小さな家

鹿児島市

施主はシンケンの広報室で
カメラマンを務める甲斐さん。

「自然の豊かな土地で、
丁寧な暮らしがしたい」

そう考えていた

夫妻にピッタリのコンパクトなお住まい。

コーディネーターと共に家の仕様と
インテリアをじっくり検討できたことは
貴重な経験だったそう。

いずれは敷地の一角に畑をつくる予定。



1階は土足で過ごせるガレージと土間。友人達を気軽に誘えるスペースだ



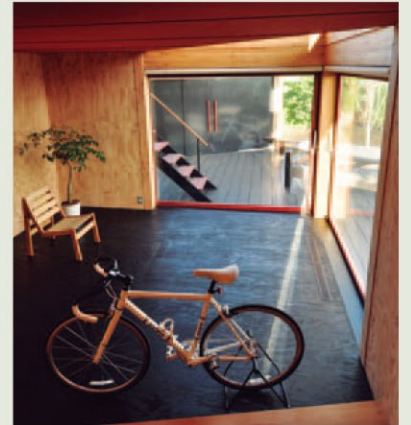
LLB
LONG LIFE BOX
1206

HANAOKA BASE

鹿児島県鹿屋市

“仲間と集まってワイワイできる
秘密基地のような居場所が欲しい”という
思いを実現した「HANAOKA BASE」。

1階は「板張りのガレージ+
仲間が集まる土間スペース」という、
男にとっては夢のような空間。
2階は自然豊かな周辺の景色を
取り込んだ、明るいキッチンと
家族が集うリビングダイニング。











23.7坪の狭小地に建つ、街なかの住まい





www.sinkenstyle.co.jp

SINKEN Group

●鹿児島での新築のご相談は

株式会社シンケン

鹿児島市下荒田 4-49-22 TEL 099-286-0088

●福岡での新築のご相談は

シンケン博多の森モデルハウス

福岡県糟屋郡志免町別府東 1-1-5 TEL 092-957-7755

●不動産のご相談は

シンケン不動産株式会社

鹿児島市下荒田 4-49-22 TEL 099-286-0055

●増改築・アフターケアのご相談は

株式会社シンケンユーザーズサポート

鹿児島市吉野町 3506 TEL 099-295-8889

●家具のご相談は

シンケンスタイルウッドワークス

鹿児島市下荒田 4-49-22 TEL 099-286-0088

●薬をまかないシロアリ防除のご相談は

シンケンハウスカケア株式会社

鹿児島市下荒田 4-49-23 ☎ 0120-025-803

与次郎ヶ浜モデルハウス

鹿児島市与次郎 2丁目 KTS 住宅フェア内 TEL 099-253-6888

天文館モデルハウス

鹿児島市呉服町 6-5 マルヤガーデンズ 7階 TEL 099-248-7720





SINKEN STYLE Concept Book

シンケンスタイルに住む。
あれから10年、いかがお過ごしですか？

2013 Autumn no.04

発行人：迫英徳
発行：株式会社シンケン
発売元：新建新聞社／アース工房
編集：株式会社シンケン広報室（窪見裕介・木浦恵美子・弓削篤史）
執筆・編集協力：長町美和子／高比良有城／西山麻夕美

写真：北田英治／高比良有城／甲斐眞（株式会社シンケン広報室）
アートディレクション：春井裕
デザイン：有限会社ペーパー・スタジオ
DTP・印刷：三共グラフィック株式会社

※無断で本書の全部、または写真・文を転載することを禁じます。
© 株式会社シンケン

掲載協力

*本書を制作するにあたり、以下の方々に協力いただきました。
Wazett style(西中間貴子様・剛様)／内野和久様・章子様／
カジキ商店(加治木徳三様・智恵美様)／平山久貴様・木ノ実様／
前田大蔵様・由美様／久保友明様・宇希子様／太細様由信様・昌子様／
シンケンの家にお住まいの皆様